

2025 年度 小金井大学院要項 Ⅲ

理工学研究科

目 次

1	機械工学専攻	P, 1～10
2	応用化学専攻	P, 11～17
3	電気電子工学専攻	P, 18～27
4	応用情報工学専攻	P, 28～35
5	システム理工学専攻（創生科学系・経営システム系）	P, 36～49
6	生命機能学専攻（生命機能学領域・植物医科学領域）	P, 50～61

1 (理工学研究科) 機械工学専攻

(1) 修士課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	英語対応
弾 性 学 特 論	2	塚 本 英 明		
応 力 解 析 特 論	2	弓 削 康 平		
材 料 強 度 学 特 論	2	佐 藤 英 一		
金 属 物 理 学 特 論	2	小 泉 隆 行		
金 属 材 料 学 特 論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	
鉄鋼材料工学特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	
耐 熱 材 料 特 論	2	木 村 一 弘		
非 金 属 材 料 特 論	2	浅 井 茂 雄		
複 合 材 料 特 論	2	新 井 和 吉		
航空宇宙材料特論	2	青 木 雄 一 郎		
応 用 熱 力 学 特 論	2	川 上 忠 重		
燃 焼 工 学 特 論	2	川 上 忠 重		
伝 熱 工 学 特 論	2	大 久 保 英 敏		
熱 動 力 特 論	2	正 木 大 作		
流 体 力 学 特 論 1	2	辻 田 星 歩		
流 体 力 学 特 論 2	2	平 野 利 幸		
流 体 機 械 特 論 1	2	玉 木 秀 明		
流 体 機 械 特 論 2	2	玉 木 秀 明		
有 限 要 素 法 特 論	2	津 田 徹		
機 械 力 学 特 論	2	石 井 千 春		
制 御 工 学 特 論	2	チャピ ゲンツィ		
プロセス制御特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	
機械音響工学特論	2	御 法 川 学		
人間・感性工学特論	2	菱 田 博 俊		
航 空 機 設 計 特 論	2	御 法 川 学		
宇 宙 飛 行 体 特 論	2	中 村 揚 介		
精 密 機 械 特 論	2	菱 田 博 俊		
数 値 解 析 法 特 論	2	松 川 豊		
資源環境物理学特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	
極 地 環 境 学 特 論	2	山 口 一		
環境エネルギー技術戦略特論	2	川上忠重・御法川学	本年度休講	
機械技術英語特論	2	城 俊 雄		
フルードパワーシステム特論	2	加 藤 友 規		
精 密 工 学 特 論	2	吉 田 一 朗		
機 械 振 動 学 特 論	2	相 原 建 人		
環境マテリアル特論	2	東 出 真 澄		

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	英語対応
機械工学特別研究 1 A	1	研究指導担当者	1 年次必修	
機械工学特別研究 1 B	2	研究指導担当者	1 年次必修	
機械工学特別研究 2 A	1	研究指導担当者	2 年次必修	
機械工学特別研究 2 B	2	研究指導担当者	2 年次必修	
機械工学特別実験 1 A	1	研究指導担当者	1 年次必修	
機械工学特別実験 1 B	1	研究指導担当者	1 年次必修	
機械工学特別実験 2 A	1	研究指導担当者	2 年次必修	
機械工学特別実験 2 B	1	研究指導担当者	2 年次必修	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を 1 A→1 B→2 A→2 B の順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A ・ 特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B ・ 特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A ・ 特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B ・ 特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
3 年目	2 年次（留級）	春学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1 ・ 2」・「特別実験 1 ・ 2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕参照）

〔例 2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1 ・ 特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

◎「特別研究」（計 6 単位）・「特別実験」（計 4 単位）を含む 30 単位を修得すること。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

(2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考
機 械 工 学 発 展 ゼ ミ ナ ー ル	2	研 究 指 導 担 当 者	必修 (コースワーク科目)
ヒューマンロボティクス特別研究1A・2A・3A	各1	石 井 千 春	
ヒューマンロボティクス特別研究1B・2B・3B	各2	石 井 千 春	
ヒューマンロボティクス特別実験1A・2A・3A	各1	石 井 千 春	
ヒューマンロボティクス特別実験1B・2B・3B	各1	石 井 千 春	
ヒューマンロボティクス特別研究1A・2A・3A	各1	チャピ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別研究1B・2B・3B	各2	チャピ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別実験1A・2A・3A	各1	チャピ ゲンツィ	
ヒューマンロボティクス特別実験1B・2B・3B	各1	チャピ ゲンツィ	
マテリアルプロセッシング特別研究1A・2A・3A	各1	新 井 和 吉	
マテリアルプロセッシング特別研究1B・2B・3B	各2	新 井 和 吉	
マテリアルプロセッシング特別実験1A・2A・3A	各1	新 井 和 吉	
マテリアルプロセッシング特別実験1B・2B・3B	各1	新 井 和 吉	
環境・エネルギー特別研究1A・2A・3A	各1	川 上 忠 重	
環境・エネルギー特別研究1B・2B・3B	各2	川 上 忠 重	
環境・エネルギー特別実験1A・2A・3A	各1	川 上 忠 重	
環境・エネルギー特別実験1B・2B・3B	各1	川 上 忠 重	
環境・エネルギー特別研究1A・2A・3A	各1	御 法 川 学	
環境・エネルギー特別研究1B・2B・3B	各2	御 法 川 学	
環境・エネルギー特別実験1A・2A・3A	各1	御 法 川 学	
環境・エネルギー特別実験1B・2B・3B	各1	御 法 川 学	
航空宇宙熱流体特別研究1A・2A・3A	各1	辻 田 星 歩	
航空宇宙熱流体特別研究1B・2B・3B	各2	辻 田 星 歩	
航空宇宙熱流体特別実験1A・2A・3A	各1	辻 田 星 歩	
航空宇宙熱流体特別実験1B・2B・3B	各1	辻 田 星 歩	
航空宇宙熱流体特別研究1A・2A・3A	各1	平 野 利 幸	
航空宇宙熱流体特別研究1B・2B・3B	各2	平 野 利 幸	
航空宇宙熱流体特別実験1A・2A・3A	各1	平 野 利 幸	
航空宇宙熱流体特別実験1B・2B・3B	各1	平 野 利 幸	
材料物性・強度特別研究1A・2A・3A	各1	塚 本 英 明	
材料物性・強度特別研究1B・2B・3B	各2	塚 本 英 明	
材料物性・強度特別実験1A・2A・3A	各1	塚 本 英 明	
材料物性・強度特別実験1B・2B・3B	各1	塚 本 英 明	
デジタルエンジニアリング特別研究1A・2A・3A	各1	吉 田 一 朗	
デジタルエンジニアリング特別研究1B・2B・3B	各2	吉 田 一 朗	
デジタルエンジニアリング特別実験1A・2A・3A	各1	吉 田 一 朗	
デジタルエンジニアリング特別実験1B・2B・3B	各1	吉 田 一 朗	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 B→3 A→3 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
		秋学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
4 年目	3 年次（留級）	春学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2・3」・「特別実験 1・2・3」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」、3 年次に「特別研究 3 A」・「特別実験 3 A」・「特別研究 3 B」・「特別実験 3 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕参照）

〔例 2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

◎コースワーク科目は必修である。

◎「特別研究」（計 9 単位）・「特別実験」（計 6 単位）とコースワーク科目（2 単位）を含む 17 単位を修得すること。

機械工学専攻 修士課程(材料物性・強度分野)履修モデル①

養成
人材像

- 材料強度や材料工学の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	—	1	2	弾性学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		—		2	環境マテリアル特論	
		—		2	材料強度学特論	
		—		2	金属物理学特論	
		—		2	非金属材料特論	
		—	1	機械工学特別研究 1A		
	秋学期	—	2 1	2	機械工学特別実験 1A	
		—		2	金属材料学特論	
		—		2	鉄鋼材料工学特論	
		—		2	耐熱材料特論	
M2	春学期	—	1 1	2	航空宇宙材料特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		—		2	複合材料特論	
		—		1	機械工学特別研究 2A	
		—		1	機械工学特別実験 2A	
	秋学期	—	2 1	2	機械工学特別研究 2B	2年次必修科目 2年次必修科目
		—		1	機械工学特別実験 2B	
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- 材料強度や材料工学の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

想定される
進路先

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

機械工学専攻 修士課程(環境・エネルギー分野)履修モデル②

養成
人材像

- 環境工学やエネルギー分野の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	—		2	流体力学特論1	
		—		2	応用熱力学特論	
		—		2	機械音響工学特論	
		—		2	流体機械特論1	
		—	1		機械工学特別研究1A	1年次必修科目
		—	1		機械工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	—		2	極値環境学特論	
		—		2	伝熱工学特論	
		—		2	航空機設計特論	
		—		2	熱動力特論	
—			2	燃焼工学特論		
—		2		機械工学特別研究1B	1年次必修科目	
M2	春学期	—		2	環境エネルギー技術戦略特論	
		—	1		機械工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		機械工学特別実験2A	2年次必修科目
		—	2		機械工学特別研究2B	2年次必修科目
	秋学期	—	2		機械工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		機械工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数		小計	10	20	
			合計	30		

身につく
能力

- 環境工学やエネルギー分野の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

想定される
進路先

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

機械工学専攻 修士課程(ヒューマンロボティクス分野)履修モデル③

養成
人材像

- ・制御工学やヒューマンロボティクス分野の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期		2	数値解析法特論	
			2	機械力学特論	
			2	プロセス制御特論	
			2	機械音響工学特論	
			2	設計生産システム特論	
		1		機械工学特別研究1A	1年次必修科目
	秋学期	1		機械工学特別実験1A	1年次必修科目
			2	制御工学特論	
			2	人間・感性工学特論	
		2		航空機設計特論	1年次必修科目
M2	春学期		2	宇宙飛行体特論	
			2	精密機械特論	
		1		機械工学特別研究2A	2年次必修科目
		1		機械工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	2		機械工学特別研究2B	2年次必修科目
		1		機械工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数				
	小計		10	20	
	合計		30		

身につく
能力

- ・制御工学やヒューマンロボティクス分野の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- ・機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

想定される
進路先

- ・機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

機械工学専攻 修士課程(マテリアルプロセッシング分野)履修モデル④

養成
人材像

- ・加工工学や材料工学の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期		2	弾性学特論	
			2	環境マテリアル特論	
			2	材料強度学特論	
			2	金属物理学特論	
			2	非金属材料特論	
		1		機械工学特別研究1A	1年次必修科目
	秋学期	1		機械工学特別実験1A	1年次必修科目
			2	応力解析特論	
			2	有限要素法特論	
		2		耐熱材料特論	1年次必修科目
M2	春学期		2	航空宇宙材料特論	
			2	複合材料特論	
		1		機械工学特別研究2A	2年次必修科目
		1		機械工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	2		機械工学特別研究2B	2年次必修科目
		1		機械工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数				
	小計		10	20	
	合計		30		

身につく
能力
想定される
進路先

- ・加工工学や材料工学の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- ・機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力
- ・機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

機械工学専攻 修士課程(航空宇宙熱流体分野)履修モデル⑤

養成
人材像

- 航空宇宙工学や熱流体工学の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	—	1	2	流体力学特論1	1年次必修科目 1年次必修科目
		—		2	応用熱力学特論	
		—		2	数値解析法特論	
		—		2	流体機械特論1	
		—	1	機械工学特別研究1A		
		—	1	機械工学特別実験1A		
	秋学期	—	2	2	流体力学特論2	1年次必修科目 1年次必修科目
		—		2	伝熱工学特論	
		—		2	流体機械特論2	
		—		2	熱動力特論	
		—	2	燃焼工学特論		
		—	2	機械工学特別研究1B		
M2	春学期	—	1	2	宇宙飛行体特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		—		1	機械工学特別研究2A	
		—		1	機械工学特別実験2A	
	秋学期	—	2		機械工学特別研究2B	2年次必修科目 2年次必修科目
		—	1		機械工学特別実験2B	
		修得単位数		小計	10	20
合計	30					

身につく
能力

- 航空宇宙工学や熱流体工学の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

想定される
進路先

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

機械工学専攻 修士課程(デジタルエンジニアリング分野)履修モデル⑥

養成
人材像

- デジタルエンジニアリング関連分野の専門能力を基礎として広く機械関連業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	—		2	数値解析法特論	
		—		2	機械力学特論	
		—		2	プロセス制御特論	
		—		2	機械音響工学特論	
		—		2	設計生産システム特論	
		1		機械工学特別研究 1A	1年次必修科目	
		1		機械工学特別実験 1A	1年次必修科目	
	秋学期	—		2	制御工学特論	
		—		2	人間・感性工学特論	
		—		2	航空機設計特論	
2			機械工学特別研究 1B	1年次必修科目		
	1		機械工学特別実験 1B	1年次必修科目		
M2	春学期	—		2	フルードパワーシステム特論	
		—		2	精密機械特論	
		1		機械工学特別研究 2A	2年次必修科目	
		1		機械工学特別実験 2A	2年次必修科目	
	秋学期	—	2		機械工学特別研究 2B	2年次必修科目
		1		機械工学特別実験 2B	2年次必修科目	
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- デジタルエンジニアリング関連分野の専門能力を中核とした機械工学の基礎及び応用能力
- 機械工学の素養を基礎として広く工学問題に対応できる能力

想定される
進路先

- 機械系製造業を中心として、機械工学の素養が有効に活用できるあらゆる業界・業種

機械工学専攻 博士後期課程(ヒューマンロボティクス分野) 履修モデル①

養成
人材像

- ・ヒューマンロボティクス分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究1A	
		—	—	1	ヒューマンロボティクス特別実験1A	
	秋学期	—	—	2	ヒューマンロボティクス特別研究1A	
		—	—	1	ヒューマンロボティクス特別実験1A	
D2	春学期	—	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究2A	
		—	—	1	ヒューマンロボティクス特別実験2A	
	秋学期	—	2		機械工学発展ゼミナール	
		—	—	2	ヒューマンロボティクス特別研究2B	
D3	春学期	—	—	1	ヒューマンロボティクス特別研究3A	
		—	—	1	ヒューマンロボティクス特別実験3A	
	秋学期	—	—	2	ヒューマンロボティクス特別研究3B	
		—	—	1	ヒューマンロボティクス特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力
想定される
進路先

- ・ヒューマンロボティクス分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識
- ・国内外の企業・国公立の研究所及び大学

機械工学専攻 博士後期課程(環境・エネルギー分野) 履修モデル②

養成
人材像

- ・環境・エネルギー分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	—	1	環境・エネルギー特別研究1A	
		—	—	1	環境・エネルギー特別実験1A	
	秋学期	—	—	2	環境・エネルギー特別研究1B	
		—	—	1	環境・エネルギー特別実験1B	
D2	春学期	—	—	1	環境・エネルギー特別研究2A	
		—	—	1	環境・エネルギー特別実験2A	
	秋学期	—	2		機械工学発展ゼミナール	
		—	—	2	環境・エネルギー特別研究2B	
D3	春学期	—	—	1	環境・エネルギー特別研究3A	
		—	—	1	環境・エネルギー特別実験3A	
	秋学期	—	—	2	環境・エネルギー特別研究3B	
		—	—	1	環境・エネルギー特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力

想定される
進路先

- ・環境・エネルギー分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識
- ・国内外の企業・国公立の研究所及び大学

機械工学専攻 博士後期課程(デジタルエンジニアリング分野) 履修モデル③

養成
人材像

- デジタルエンジニアリング分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究1A	
	—	—	1	デジタルエンジニアリング特別実験1A	
D2	春学期	—	2	デジタルエンジニアリング特別研究1B	
	—	—	1	デジタルエンジニアリング特別実験1B	
D2	春学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究2A	
	—	—	1	デジタルエンジニアリング特別実験2A	
D2	春学期	2		機械工学発展ゼミナール	
	秋学期	—	2	デジタルエンジニアリング特別研究2B	
	—	—	1	デジタルエンジニアリング特別実験2B	
D3	春学期	—	1	デジタルエンジニアリング特別研究3A	
	—	—	1	デジタルエンジニアリング特別実験3A	
D3	秋学期	—	2	デジタルエンジニアリング特別研究3B	
	—	—	1	デジタルエンジニアリング特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

身につく
能力想定される
進路先

- デジタルエンジニアリング分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

- 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

機械工学専攻 博士後期課程(航空宇宙熱流体分野) 履修モデル④

養成
人材像

- 航空宇宙熱流体分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究1A	
	—	—	1	航空宇宙熱流体特別実験1A	
D1	秋学期	—	2	航空宇宙熱流体特別研究1B	
	—	—	1	航空宇宙熱流体特別実験1B	
D2	春学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究2A	
	—	—	1	航空宇宙熱流体特別実験2A	
D2	春学期	2		機械工学発展ゼミナール	
	秋学期	—	2	航空宇宙熱流体特別研究2B	
	—	—	1	航空宇宙熱流体特別実験2B	
D3	春学期	—	1	航空宇宙熱流体特別研究3A	
	—	—	1	航空宇宙熱流体特別実験3A	
D3	秋学期	—	2	航空宇宙熱流体特別研究3B	
	—	—	1	航空宇宙熱流体特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15	
		合計	17		

身につく
能力想定される
進路先

- 航空宇宙熱流体分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

- 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

機械工学専攻 博士後期課程(材料物性・強度分野) 履修モデル⑤

養成
人材像

- 材料物性・強度分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	—	1	材料物性・強度特別研究1A	
		—	—	1	材料物性・強度特別実験1A	
	秋学期	—	—	2	材料物性・強度特別研究1B	
		—	—	1	材料物性・強度特別実験1B	
D2	春学期	—	—	1	材料物性・強度特別研究2A	
		—	—	1	材料物性・強度特別実験2A	
	秋学期	—	2		機械工学発展ゼミナール	
		—	—	2	材料物性・強度特別研究2B	
D3	春学期	—	—	1	材料物性・強度特別研究3A	
		—	—	1	材料物性・強度特別実験3A	
	秋学期	—	—	2	材料物性・強度特別研究3B	
		—	—	1	材料物性・強度特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力

- 材料物性・強度分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

想定される
進路先

- 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

機械工学専攻 博士後期課程(マテリアルプロセッシング分野) 履修モデル⑥

養成
人材像

- マテリアルプロセッシング分野の研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	—	1	マテリアルプロセッシング特別研究1A	
		—	—	1	マテリアルプロセッシング特別実験1A	
	秋学期	—	—	2	マテリアルプロセッシング特別研究1B	
		—	—	1	マテリアルプロセッシング特別実験1B	
D2	春学期	—	—	1	マテリアルプロセッシング特別研究2A	
		—	—	1	マテリアルプロセッシング特別実験2A	
	秋学期	—	2		機械工学発展ゼミナール	
		—	—	2	(マテリアルプロセッシング特別研究2B	
D3	春学期	—	—	1	マテリアルプロセッシング特別研究3A	
		—	—	1	マテリアルプロセッシング特別実験3A	
	秋学期	—	—	2	(マテリアルプロセッシング特別研究3B	
		—	—	1	(マテリアルプロセッシング特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力

- マテリアルプロセッシング分野を中核として機械工学の高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

想定される
進路先

- 国内外の企業・国公立の研究所及び大学

2 (理工学研究科) 応用化学専攻

(1) 修士課程授業科目および担当者一覧

分野名	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
物性化学分野	分子シミュレーション特論	2	高 井 和 之		奇数年	○
	分子分光光学特論	2	高 井 和 之	本年度休講	偶数年	○
	固体分光光学特論	2	緒 方 啓 典	本年度休講	偶数年	○
	先端材料物性特論	2	緒 方 啓 典		奇数年	○
	高分子物理化学特論	2	渡 辺 敏 行			
材料化学分野	無機合成化学特論	2	藤 井 孝 太 郎		奇数年	○
	高機能セラミックス特論	2	藤 井 孝 太 郎	本年度休講	偶数年	○
	有機化学反応特論	2	河 内 敦		奇数年	○
	有機合成化学特論	2	河 内 敦	本年度休講	偶数年	○
	高エネルギー反応場特論	2	小林清・松本尚之			
	無機反応化学特論	2	明 石 孝 也			○
	高分子合成化学特論	2	杉 山 賢 次		奇数年	○
	高分子設計特論	2	杉 山 賢 次	本年度休講	偶数年	○
化学工学分野	化学装置物性特論	2	森 隆 昌		奇数年	○
	反応工学特論	2	山 下 明 泰	本年度休講	偶数年	○
	物質移動特論	2	山 下 明 泰		奇数年	○
	分離工学特論	2	森 隆 昌	本年度休講	偶数年	○
	微粒子材料工学特論	2	神 谷 秀 博			
	結晶化学工学特論	2	打 越 哲 郎			
環境化学分野	水環境工学特論	2	渡 邊 雄 二 郎	本年度休講	偶数年	○
	環境計測特論	2	中 嶋 吉 弘			
	環境衛生学特論	2	福島由美子・高橋勉			
	環境科学特論	2	渡 邊 雄 二 郎		奇数年	○
共通選択	起 業 特 論	2	辻 井 康 一			
	国際会議化学英語表現法	2	城 俊 雄			○
	フロンティア化学特論 A	2	小鍋哲・岡田浩 岡本敏・本橋輝樹 田村堅志		奇数年	
	フロンティア化学特論 B	2	小 鍋 哲・菊 池 裕 小林真盛・後関頼太 富沢成美・見附孝一郎	本年度休講	偶数年	
	コンピュータ利用化学特論	2	山 田 祐 理			
	科学プレゼンテーション演習	2	城 俊 雄			
	サステナビリティ研究入門 A	2	富 永 洋 一			
	サステナビリティ研究入門 B	2	今 村 隆 史			
	応用化学特別研究 1 A	1	研究指導担当者	1 年次必修		
	応用化学特別研究 1 B	2	研究指導担当者	1 年次必修		

分野名	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
	応 用 化 学 特 別 研 究 2 A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	応 用 化 学 特 別 研 究 2 B	2	研究指導担当者	2年次必修		
	応 用 化 学 特 別 実 験 1 A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	応 用 化 学 特 別 実 験 1 B	1	研究指導担当者	1年次必修		
	応 用 化 学 特 別 実 験 2 A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	応 用 化 学 特 別 実 験 2 B	1	研究指導担当者	2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例 1] 参照)

[例 1]

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	2 年次(留級)	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2」・「特別実験 1・2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。([例 2] 参照)

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

◎授業科目一覧の主要 4 分野および共通選択の配当科目から、各分野に指定された数以上の単位を受講すること。

物性化学分野 - 2 単位 (1 科目) 以上 材料化学分野 - 4 単位 (2 科目) 以上 化学工学分野 - 2 単位 (1 科目) 以上 環境化学分野 - 2 単位 (1 科目) 以上 共通選択 - 2 単位 (1 科目) 以上

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

(2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
応 用 化 学 発 展 ゼ ミ ナ ー ル	2	緒方・明石・杉山・山下 河内・高井・森・渡邊	必修(コースワーク 科目)
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	緒 方 啓 典	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	緒 方 啓 典	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	緒 方 啓 典	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	緒 方 啓 典	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	明 石 孝 也	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	明 石 孝 也	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	明 石 孝 也	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	明 石 孝 也	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	杉 山 賢 次	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	杉 山 賢 次	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	杉 山 賢 次	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	杉 山 賢 次	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	山 下 明 泰	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	山 下 明 泰	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	山 下 明 泰	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	山 下 明 泰	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	河 内 敦	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	河 内 敦	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	河 内 敦	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	河 内 敦	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	高 井 和 之	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	高 井 和 之	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	高 井 和 之	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	高 井 和 之	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	森 隆 昌	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	森 隆 昌	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	森 隆 昌	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	森 隆 昌	
先端応用化学特別研究1A・2A・3A	各1	渡 邊 雄 二 郎	
先端応用化学特別研究1B・2B・3B	各2	渡 邊 雄 二 郎	
先端応用化学特別実験1A・2A・3A	各1	渡 邊 雄 二 郎	
先端応用化学特別実験1B・2B・3B	各1	渡 邊 雄 二 郎	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 B→3 A→3 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
		秋学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
4 年目	3 年次（留級）	春学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2・3」・「特別実験 1・2・3」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」「特別実験 2 A」「特別研究 2 B」「特別実験 2 B」、3 年次に「特別研究 3 A」「特別実験 3 A」「特別研究 3 B」「特別実験 3 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕参照）

〔例 2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

◎コースワーク科目は必修である。

◎「特別研究」（計 9 単位）・「特別実験」（計 6 単位）とコースワーク科目（2 単位）を含む 17 単位を修得すること。

応用化学専攻 修士課程(物性化学分野)履修モデル①

養成
人材像

- 物質のもつ様々な機能の探求と新規機能性物質の創製に関する基礎及び応用能力を有する人材。

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期		2	固体分光光学特論	
			2	環境科学特論	
			2	国際会議化学英語表現法	
			2	分子分光光学特論	
		1		応用化学特別研究1A	1年次必修科目
		1		応用化学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期		2	高機能セラミックス特論	
			2	有機化学反応特論	
			2	化学装置物性特論	
		2		応用化学特別研究1B	1年次必修科目
M2	春学期		2	先端材料物性特論	
			2	分子シミュレーション特論	
		1		応用化学特別研究2A	2年次必修科目
		1		応用化学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期		2	高エネルギー反応場特論	
		2		応用化学特別研究2B	2年次必修科目
		1		応用化学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数				
	小計		10	20	
	合計		30		

身につく
能力

- 原子・分子に立脚した物質の本質を理解し、物質のもつ様々な機能の探求と新規機能性物質の創製に関する基礎及び応用能力。
- 物質設計、材料開発に関する総合的な知識

想定される
進路先

- 物質開発等に関連した様々な製造業における研究者、技術者

応用化学専攻 修士課程(材料化学分野)履修モデル②

養成
人材像

- 現代社会が求める新素材開発のための新規合成手法の開発能力を持ち社会で活躍出来る人材。

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期		2	固体分光光学特論	
			2	高分子設計特論	
			2	無機反応化学特論	
		1		応用化学特別研究1A	1年次必修科目
		1		応用化学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期		2	高機能セラミックス特論	
			2	環境計測特論	
			2	サステイナビリティ研究入門A	
		2		応用化学特別研究1B	1年次必修科目
M2	春学期		2	先端材料物性特論	
			2	フロンティア化学特論A/B	
		1		応用化学特別研究2A	2年次必修科目
		1		応用化学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期		2	高エネルギー反応場特論	
			2	物質移動特論	
		2		応用化学特別研究2B	2年次必修科目
		1		応用化学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数				
	小計		10	20	
	合計		30		

身につく
能力

- 有機合成化学、無機合成化学等合成化学的手法の基礎及び応用。
- 材料化学に関する総合的な知識。

想定される
進路先

- 物質開発等に関連した様々な製造業における研究者、技術者。

応用化学専攻 修士課程(化学工学分野)履修モデル③

養成
人材像

- 環境に調和した化学プロセスの開発分野で活躍出来る人材。

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	物性化学分野	2	固体分光光学特論	
		材料化学分野	2	無機反応化学特論	
		環境化学分野	2	環境科学特論	
		共通必修	1	応用化学特別研究1A	1年次必修科目
		共通必修	1	応用化学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	材料化学分野	2	有機合成化学特論	
		化学工学分野	2	分離工学特論	
		化学工学分野	2	反応工学特論	
		共通選択	2	コンピュータ利用化学特論	
		—	2	応用化学特別研究1B	1年次必修科目
M2	春学期	共通必修	1	応用化学特別研究2A	2年次必修科目
		共通必修	1	応用化学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	共通選択	2	起業特論	
		化学工学分野	2	化学装置物性特論	
		化学工学分野	2	物質移動特論	
		—	2	応用化学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1	応用化学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数		小計	10	20
			合計	30	

身につく
能力

- 環境に調和した化学工学的プロセス開発の基礎及び応用能力。

想定される
進路先

- 化学系製造業をはじめ様々な産業分野における研究者、技術者。

応用化学専攻 修士課程(環境化学分野)履修モデル④

養成
人材像

- 環境問題を化学的手法により解決できる技術をもち、社会で活躍出来る人材。

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	物性化学分野	2	固体分光光学特論	
		材料化学分野	2	高分子設計特論	
		環境化学分野	2	環境科学特論	
		共通選択	2	国際会議化学英語表現法	
		共通必修	1	応用化学特別研究1A	1年次必修科目
	秋学期	共通必修	1	応用化学特別実験1A	1年次必修科目
		材料化学分野	2	高機能セラミックス特論	
		化学工学分野	2	反応工学特論	
		環境化学分野	2	環境衛生学特論	
		環境化学分野	2	環境計測特論	
M2	春学期	共通必修	1	応用化学特別研究2A	2年次必修科目
		共通必修	1	応用化学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	環境化学分野	2	水環境工学特論	
		共通選択	2	サステイナビリティ研究入門B	
		—	2	応用化学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1	応用化学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数		小計	10	20
			合計	30	

身につく
能力

- 環境化学に関する基礎及び応用能力。
- 環境保全、環境再生などの化学的解決法に関する能力。

想定される
進路先

- 化学系企業、環境分析、環境保全事業等における研究者、技術者。

応用化学専攻 博士後期課程 履修モデル

養成
人材像

- 研究者として自立して研究活動を行い、先端化学に関する高度の専門性を有する人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	1		先端応用化学特別研究1A 先端応用化学特別実験1A	
	秋学期	2 2 1		応用化学発展ゼミナール 先端応用化学特別研究1B 先端応用化学特別実験1B	必修
D2	春学期	1 1		先端応用化学特別研究2A 先端応用化学特別実験2A	
	秋学期	2 1		先端応用化学特別研究2B 先端応用化学特別実験2B	
D3	春学期	1 1		先端応用化学特別研究3A 先端応用化学特別実験3A	
	秋学期	2 1		先端応用化学特別研究3B 先端応用化学特別実験3B	
修得単位数		小計 合計	17 17		

身につく
能力

- 先端化学に関する高度の研究能力と豊かな学識

想定される
進路先

- 国内外の化学関連企業の研究所もしくは大学教員

3 （理工学研究科）電気電子工学専攻

（1）修士課程授業科目および担当者一覧

科目区分	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
専門基礎科目	回 路 工 学 特 論 1	2	安 田 彰			○
	回 路 工 学 特 論 2	2	斉 藤 利 通			○
	電 磁 波 通 信 工 学 特 論 1	2	有 馬 卓 司	2025年度は英語対応をしない		○
	電 磁 波 通 信 工 学 特 論 2	2	広 瀬 数 秀		奇数年	
	通 信 伝 送 工 学 特 論 1	2	藤 澤 剛	2025年度は英語対応をしない		○
	通 信 伝 送 工 学 特 論 2	2	広 瀬 数 秀	本年度休講	偶数年	
	電 磁 力 学 特 論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	半 導 体 デ バ イ ス 工 学 特 論 1	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	電 子 材 料 工 学 特 論 1	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	電 子 材 料 工 学 特 論 2	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	電 子 物 性 工 学 特 論 1	2	中 村 俊 博			○
	電 子 物 性 工 学 特 論 2	2	中 村 俊 博			○
	知 能 ロ ボ ッ ト 特 論	2	伊 藤 一 之			
	知 的 制 御 特 論	2	伊 藤 一 之			○
	情 報 通 信 工 学 特 論	2	柴 山 純			○
	人 工 知 能 回 路 特 論	2	鳥 飼 弘 幸			○
	生 物 模 倣 回 路 特 論	2	鳥 飼 弘 幸			
	電 磁 界 数 値 解 析 特 論	2	阿 波 根 明	2025年度は英語対応をしない		○
	ナノマイクロシステム工学特論	2	笠 原 崇 史			○
	知 的 情 報 処 理 特 論 1	2	彌 富 仁 (応用情報工学専攻)			○
	ニューラルネットワークの理論と応用	2	斉 欣 (応用情報工学専攻)			○
専門応用科目	集 積 回 路 特 論 1	2	南 部 博 昭			
	集 積 回 路 特 論 2	2	南 部 博 昭			
	半 導 体 工 学 特 論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	イオンビーム応用工学特論	2	西 村 智 朗			
	電力システム工学特論1	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	知的電機システム設計特論	2	佐 々 木 秀 徳			
	パワーエレクトロニクス特論	2	海 野 洋			
	制 御 工 学 特 論 1	2	鈴 木 雅 康			
	制 御 工 学 特 論 2	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	情 報 伝 送 工 学 特 論 1	2	斉 藤 茂 樹			
	情 報 伝 送 工 学 特 論 2	2	斉 藤 茂 樹			

科目 区分	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語 対応
専 門 応 用 科 目	応 用 数 学 特 論	2	田 川 泰 敬			
	通 信 機 器 工 学 特 論 1	2	斉 藤 茂 樹			
	通 信 機 器 工 学 特 論 2	2	斉 藤 茂 樹			
	集積化光エレクトロニクス工学特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	オペレーティングシステム特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	マイクロ波トランジスタ工学特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	知 能 シ ス テ ム 化 技 術 特 論	2	中 村 壮 亮			○
	ロ ボ テ ィ ク ス 特 論	2	岩 城 敏			
	電気機器の数理最適化特論	2	岡 本 吉 史			
	ナ ノ 材 料 工 学 特 論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	機 械 学 習 特 論	2	神 野 健 哉			
	光電変換デバイス工学特論1	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	電気化学エネルギー工学特論	2	五 十 嵐 泰 史	本年度休講		
	生体センシングエレクトロニクス特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
	マルチメディア通信特論	2	深 沢 徹	本年度休講		
	電 子 材 料 プ ロ セ シ ン グ	2	石 橋 啓 次			
	応用ナノマイクロデバイス特論	2	水 野 潤			
	電 磁 界 有 限 要 素 法 特 論	2	阿 波 根 明			
	電気電子工学特別研究1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別研究1B	2	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別研究2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	電気電子工学特別研究2B	2	研究指導担当者	2年次必修		
	電気電子工学特別実験1A	1	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別実験1B	1	研究指導担当者	1年次必修		
	電気電子工学特別実験2A	1	研究指導担当者	2年次必修		
	電気電子工学特別実験2B	1	研究指導担当者	2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2 年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例1〕参照）

[例 1]

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	2 年次（留級）	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2」・「特別実験 1・2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（[例 2] 参照）

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

◎「特別研究」（計 6 単位）・「特別実験」（計 4 単位）を含む 30 単位を修得すること。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

（2）博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考
回 路 工 学 コ ア ス タ デ ィ	2	斉藤利通・安田彰・ 鳥飼弘幸	2 単位 必修 (コースワーク科目)
通 信 工 学 コ ア ス タ デ ィ	2	柴 山 純・藤 澤 剛	
マイクロ・ナノ工学コアスタディ	2	中村俊博・笠原崇史	
エ ネ ル ギ ー 工 学 コ ア ス タ デ ィ	2	岡 本 吉 史	
制 御 工 学 コ ア ス タ デ ィ	2	伊藤一之・中村壮亮	
プ ラ ズ マ 工 学 コ ア ス タ デ ィ	2	担 当 者 未 定	
回路工学特別研究 1 A・2 A・3 A	各 1	斉 藤 利 通	
回路工学特別研究 1 B・2 B・3 B	各 2	斉 藤 利 通	
回路工学特別実験 1 A・2 A・3 A	各 1	斉 藤 利 通	
回路工学特別実験 1 B・2 B・3 B	各 1	斉 藤 利 通	
回路工学特別研究 1 A・2 A・3 A	各 1	安 田 彰	
回路工学特別研究 1 B・2 B・3 B	各 2	安 田 彰	
回路工学特別実験 1 A・2 A・3 A	各 1	安 田 彰	
回路工学特別実験 1 B・2 B・3 B	各 1	安 田 彰	
回路工学特別研究 1 A・2 A・3 A	各 1	鳥 飼 弘 幸	
回路工学特別研究 1 B・2 B・3 B	各 2	鳥 飼 弘 幸	

回路工学特別実験1A・2A・3A	各1	鳥飼 弘 幸	
回路工学特別実験1B・2B・3B	各1	鳥飼 弘 幸	
通信工学特別研究1A・2A・3A	各1	柴 山 純	
通信工学特別研究1B・2B・3B	各2	柴 山 純	
通信工学特別実験1A・2A・3A	各1	柴 山 純	
通信工学特別実験1B・2B・3B	各1	柴 山 純	
通信工学特別研究1A・2A・3A	各1	藤 澤 剛	
通信工学特別研究1B・2B・3B	各2	藤 澤 剛	
通信工学特別実験1A・2A・3A	各1	藤 澤 剛	
通信工学特別実験1B・2B・3B	各1	藤 澤 剛	
電子物性工学特別研究1A・2A・3A	各1	中 村 俊 博	
電子物性工学特別研究1B・2B・3B	各2	中 村 俊 博	
電子物性工学特別実験1A・2A・3A	各1	中 村 俊 博	
電子物性工学特別実験1B・2B・3B	各1	中 村 俊 博	
制御工学特別研究1A・2A・3A	各1	伊 藤 一 之	
制御工学特別研究1B・2B・3B	各2	伊 藤 一 之	
制御工学特別実験1A・2A・3A	各1	伊 藤 一 之	
制御工学特別実験1B・2B・3B	各1	伊 藤 一 之	
制御工学特別研究1A・2A・3A	各1	中 村 壮 亮	
制御工学特別研究1B・2B・3B	各2	中 村 壮 亮	
制御工学特別実験1A・2A・3A	各1	中 村 壮 亮	
制御工学特別実験1B・2B・3B	各1	中 村 壮 亮	
エネルギー工学特別研究1A・2A・3A	各1	岡 本 吉 史	
エネルギー工学特別研究1B・2B・3B	各2	岡 本 吉 史	
エネルギー工学特別実験1A・2A・3A	各1	岡 本 吉 史	
エネルギー工学特別実験1B・2B・3B	各1	岡 本 吉 史	
プラズマ工学特別研究1A・2A・3A	各1	担 当 者 未 定	
プラズマ工学特別研究1B・2B・3B	各2	担 当 者 未 定	
プラズマ工学特別実験1A・2A・3A	各1	担 当 者 未 定	
プラズマ工学特別実験1B・2B・3B	各1	担 当 者 未 定	
ナノマイクロシステム工学特別研究1A・2A・3A	各1	笠 原 崇 史	
ナノマイクロシステム工学特別研究1B・2B・3B	各2	笠 原 崇 史	
ナノマイクロシステム工学特別実験1A・2A・3A	各1	笠 原 崇 史	
ナノマイクロシステム工学特別実験1B・2B・3B	各1	笠 原 崇 史	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

次頁の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕 参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
		秋学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
4 年目	3 年次（留級）	春学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2・3」・「特別実験 1・2・3」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」「特別実験 2 A」「特別研究 2 B」「特別実験 2 B」、3 年次に「特別研究 3 A」「特別実験 3 A」「特別研究 3 B」「特別実験 3 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕 参照）

〔例 2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

◎コースワーク科目は必修である。コースワーク科目 6 科目のうち、自身が専門とする分野の科目を 1 科目履修すること。

◎「特別研究」（計 9 単位）・「特別実験」（計 6 単位）とコースワーク科目（2 単位）を含む 17 単位を修得すること。

電気電子工学専攻 修士課程(回路工学分野)履修モデル①

養成
人材像

- 回路工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	専門基礎科目		2	回路工学特論1	
		専門基礎科目		2	通信伝送工学特論1	
		専門応用科目		2	電気機器の数理最適化特論	
		専門応用科目		2	制御工学特論1	
		専門応用科目		2	機械学習特論	
		特別研究特別実験	1	電気電子工学特別研究1A	1年次必修科目	
		特別研究特別実験	1	電気電子工学特別実験1A	1年次必修科目	
	秋学期	専門基礎科目		2	回路工学特論2	
		専門基礎科目		2	人工知能回路特論	
		専門基礎科目		2	生物模倣回路特論	
		専門基礎科目		2	通信伝送工学特論2	
		専門応用科目		2	生体センシングエレクトロニクスト論	
		専門応用科目		2	知的電機システム設計特論	
		専門応用科目		2	パワーエレクトロニクスト論	
M2	春学期	専門応用科目		2	集積回路特論1	
		—	1	電気電子工学特別研究2A	2年次必修科目	
—		1	電気電子工学特別実験2A	2年次必修科目		
秋学期	—	2	電気電子工学特別研究2B	2年次必修科目		
	—	1	電気電子工学特別実験2B	2年次必修科目		
修得単位数		小計	10	26		
		合計	36			

身につく
能力想定される
進路先

- 回路工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び应用能力
- 電気電子工学全般の基礎力を有する能力
- 電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 修士課程(通信工学分野)履修モデル②

養成
人材像

- 通信工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	専門基礎科目		2	通信伝送工学特論1	
		専門基礎科目		2	電磁波通信工学特論1	
		専門基礎科目		2	回路工学特論1	
		専門応用科目		2	情報伝送工学特論1	
		専門応用科目		2	通信機器工学特論1	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究1A	1年次必修科目
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	専門基礎科目		2	通信伝送工学特論2	
		専門基礎科目		2	情報通信工学特論	
		専門基礎科目		2	電磁波通信工学特論2	
		専門応用科目		2	情報伝送工学特論2	
		専門応用科目		2	通信機器工学特論2	
		—	2		電気電子工学特別研究1B	1年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	—	1		電気電子工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	専門応用科目		2	マルチメディア通信特論	
		—	2		電気電子工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	22		
		合計	32			

身につく
能力想定される
進路先

- 通信工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び应用能力
- 電気電子工学全般の基礎力を有する能力
- 電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 修士課程(エネルギー工学分野)履修モデル③

養成
人材像

- ・エネルギー工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材
- ・電動化技術の習得によるSDGs GOALS 7, 9, 13 を実現できる人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期		2	電磁界数値解析特論	
			2	回路工学特論1	
			2	電気機器の数理最適化特論	
			2	制御工学特論1	
			2	機械学習特論	
		1		電気電子工学特別研究1A	1年次必修科目
	秋学期	1		電気電子工学特別実験1A	1年次必修科目
			2	回路工学特論2	
			2	パワーエレクトロニクス特論	
			2	知的電機システム設計特論	
			2	電磁界有限要素法特論	
		2		電気電子工学特別研究1B	1年次必修科目
M2	春学期	1		電気電子工学特別研究2A	2年次必修科目
		1		電気電子工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期		2	情報通信工学特論	
		2		電気電子工学特別研究2B	2年次必修科目
		1		電気電子工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数				
	小計		10	20	
	合計		30		

身につく
能力

- ・エネルギー工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力
- ・SDGs GOALS 7, 9, 13 を実現できる電動化技術

想定される
進路先

- ・電気電子工学全般の研究者・技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 修士課程(制御工学分野)履修モデル④

養成
人材像

- ・制御工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期		2	知能ロボット特論	
			2	回路工学特論1	
			2	制御工学特論1	
			2	電気機器の数理最適化特論	
			2	機械学習特論	
		1		電気電子工学特別研究1A	1年次必修科目
	秋学期	1		電気電子工学特別実験1A	1年次必修科目
			2	知的制御特論	
			2	回路工学特論2	
			2	制御工学特論2	
			2	ロボティクス特論	
			2	知能システム化技術特論	
M2	春学期	2		電気電子工学特別研究1B	1年次必修科目
		1		電気電子工学特別実験1B	1年次必修科目
	秋学期	1		電気電子工学特別研究2A	2年次必修科目
		1		電気電子工学特別実験2A	2年次必修科目
			2	情報通信工学特論	
		2		電気電子工学特別研究2B	2年次必修科目
		1		電気電子工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数				
	小計		10	22	
	合計		32		

身につく
能力

- ・制御工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用能力
- ・電気電子工学全般の基礎力を有する能力

想定される
進路先

- ・電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 修士課程(材料・物性分野)履修モデル⑤

養成
人材像

・ナノマイクロプロセス工学・電子物性工学分野を生かした電気電子業界で活躍出来る人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	専門基礎科目		2	電子物性工学特論1	
		専門基礎科目		2	ナノマイクロシステム工学特論	
		専門応用科目		2	マイクロ波トランジスタ工学特論	
		専門応用科目		2	集積回路特論1	
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別研究1A	1年次必修科目
		特別研究特別実験	1		電気電子工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	専門基礎科目		2	電子物性工学特論2	
		専門応用科目		2	イオンビーム応用工学特論	
		専門応用科目		2	応用ナノマイクロデバイス特論	
		専門応用科目		2	ナノ材料工学特論	
—		2		電気電子工学特別研究1B	1年次必修科目	
	—	1		電気電子工学特別実験1B	1年次必修科目	
M2	春学期	専門応用科目		2	電気化学エネルギー工学特論	
		—	1		電気電子工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	専門応用科目		2	電子材料プロセス	
		—	2		電気電子工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		電気電子工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- ・ナノマイクロプロセス工学・電子物性工学分野を中心とした電気電子工学の基礎及び応用力
- ・電気電子工学全般の基礎力を有する能力

想定される
進路先

・電気系企業ばかりでなく、電気電子工学全般の技術者を必要とするあらゆる業界・業種

電気電子工学専攻 博士後期課程(回路工学分野)履修モデル①

養成
人材像

・研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	1	—	回路工学特別研究1A	必修
		—	1	—	回路工学特別実験1A	
		—	2	—	回路工学コアスタディ	
	秋学期	—	2	—	回路工学特別研究1B	
—		1	—	回路工学特別実験1B		
D2	春学期	—	1	—	回路工学特別研究2A	
		—	1	—	回路工学特別実験2A	
	秋学期	—	2	—	回路工学特別研究2B	
		—	1	—	回路工学特別実験2B	
D3	春学期	—	1	—	回路工学特別研究3A	
		—	1	—	回路工学特別実験3A	
	秋学期	—	2	—	回路工学特別研究3B	
		—	1	—	回路工学特別実験3B	
修得単位数		小計	17	0		
		合計	17			

身につく
能力

・高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

想定される
進路先

・国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(通信工学分野) 履修モデル②

養成
人材像

・研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	1	—	通信工学特別研究1A	必修
		—	1	—	通信工学特別実験1A	
		—	2	—	通信工学コアスタディ	
	秋学期	—	2	—	通信工学特別研究1B	
—		1	—	通信工学特別実験1B		
D2	春学期	—	1	—	通信工学特別研究2A	
		—	1	—	通信工学特別実験2A	
	秋学期	—	2	—	通信工学特別研究2B	
		—	1	—	通信工学特別実験2B	
D3	春学期	—	1	—	通信工学特別研究3A	
		—	1	—	通信工学特別実験3A	
	秋学期	—	2	—	通信工学特別研究3B	
		—	1	—	通信工学特別実験3B	
修得単位数			小計	17	0	
			合計	17		

身につく
能力

・高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

想定される
進路先

・国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(エネルギー工学分野) 履修モデル③

養成
人材像

・研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	1	—	エネルギー工学特別研究1A	必修
		—	1	—	エネルギー工学特別実験1A	
		—	2	—	エネルギー工学コアスタディ	
	秋学期	—	2	—	エネルギー工学特別研究1B	
—		1	—	エネルギー工学特別実験1B		
D2	春学期	—	1	—	エネルギー工学特別研究2A	
		—	1	—	エネルギー工学特別実験2A	
	秋学期	—	2	—	エネルギー工学特別研究2B	
		—	1	—	エネルギー工学特別実験2B	
D3	春学期	—	1	—	エネルギー工学特別研究3A	
		—	1	—	エネルギー工学特別実験3A	
	秋学期	—	2	—	エネルギー工学特別研究3B	
		—	1	—	エネルギー工学特別実験3B	
修得単位数		小計	17	0		
		合計	17			

身につく
能力

・高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

想定される
進路先

・国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(制御工学分野) 履修モデル④

養成
人材像

・研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	1	—	制御工学特別研究1A	必修
			1	—	制御工学特別実験1A	
			2	—	制御工学コアスタディ	
	秋学期	—	2	—	制御工学特別研究1B	
1			—	制御工学特別実験1B		
D2	春学期	—	1	—	制御工学特別研究2A	
			1	—	制御工学特別実験2A	
	秋学期	—	2	—	制御工学特別研究2B	
			1	—	制御工学特別実験2B	
D3	春学期	—	1	—	制御工学特別研究3A	
			1	—	制御工学特別実験3A	
	秋学期	—	2	—	制御工学特別研究3B	
			1	—	制御工学特別実験3B	
修得単位数		小計	17	0		
		合計	17			

身につく
能力
想定され
る
進路先

・高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

・国内外の企業の研究所及び大学教員

電気電子工学専攻 博士後期課程(材料・物性工学分野) 履修モデル⑤

養成
人材像

・研究者として自立して研究活動を行い、高度の専門性を有する人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—	1	—	電子物性工学特別研究1A	必修
		—	1	—	電子物性工学特別実験1A	
		—	2	—	電子物性工学コアスタディ	
	秋学期	—	2	—	電子物性工学特別研究1B	
—		1	—	電子物性工学特別実験1B		
D2	春学期	—	1	—	電子物性工学特別研究2A	
		—	1	—	電子物性工学特別実験2A	
	秋学期	—	2	—	電子物性工学特別研究2B	
		—	1	—	電子物性工学特別実験2B	
D3	春学期	—	1	—	電子物性工学特別研究3A	
		—	1	—	電子物性工学特別実験3A	
	秋学期	—	2	—	電子物性工学特別研究3B	
		—	1	—	電子物性工学特別実験3B	
修得単位数			小計	17	0	
			合計	17		

身につく
能力
想定され
る
進路先

・高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識

・国内外の企業の研究所及び大学教員

4 (理工学研究科) 応用情報工学専攻

(1) 修士課程授業科目および担当者一覧

	分野名	授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語 対応
基 幹 科 目	計 算 機 工 学 分 野	離散アルゴリズム特論 1	2	李 磊			○
		離散アルゴリズム特論 2	2	李 磊			
		計算機システム工学特論 1	2	和 田 幸 一	本年度休講	偶数年	○
		計算機システム工学特論 2	2	和 田 幸 一		奇数年	
		理論計算機科学特論 1	2	和 佐 州 洋			○
		理論計算機科学特論 2	2	和 佐 州 洋			
	情 報 工 学 分 野	通信ネットワーク特論 1	2	金 井 敦			
		通信ネットワーク特論 2	2	谷 本 茂 明			○
		分散処理システム特論 1	2	藤 井 章 博	本年度休講		○
		分散処理システム特論 2	2	藤 井 章 博	本年度休講		
		無線ネットワーク特論 1	2	品 川 満			○
		無線ネットワーク特論 2	2	品 川 満			
	工 情 報 工 学 分 野	情報信号処理工学特論 1	2	周 金 佳			○
		情報信号処理工学特論 2	2	周 金 佳			○
		画像工学特論 1	2	尾 川 浩 一		奇数年	○
		画像工学特論 2	2	尾 川 浩 一	本年度休講	偶数年	
		知的情報処理特論 1	2	彌 富 仁			○
		知的情報処理特論 2	2	彌 富 仁	本年度休講		○
		ニューラルネットワークの理論と応用	2	斉 欣			○
		深層学習の効率的処理	2	CAP, Huu Quan			○
	工 人 学 分 野	最適化システム特論 1	2	山 岸 昌 夫	2023 年度「感 性情報処理シ ステム特論1」を 履修済みの場合 は履修不可		○
		最適化システム特論 2	2	山 岸 昌 夫	2023 年度「感 性情報処理シ ステム特論2」を 履修済みの場合 は履修不可		
		脳情報処理特論 1	2	平 原 誠			
		脳情報処理特論 2	2	平 原 誠			○
		大規模言語モデルを用いた生成型 AI	2	GUO, Ao			○
科 展 目 開		画像解析特論	2	清 水 昭 伸			
		応用信号処理特論	2	吉 田 久			○
		学習アルゴリズム特論	2	藤 原 靖 宏			
		データマイニング特論	2	小 林 透			

	分野名	授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語 対応
展 開 科 目		計 算 幾 何 学 特 論	2	古 賀 久 志			
		自 然 言 語 処 理 特 論	2	長 谷 川 拓			
		プログラム意味論特論	2	藤 田 憲 悦			
		情報処理未来洞察特論	2	七 丈 直 弘			
		センサーネット特論	2	門 勇 一			
		インターネットとイノベーション特論	2	井 口 卓 郎			○
		感覚・感性センシング特論	2	吉 田 宏 之			
		3次元モデリング特論	2	斎 藤 隆 文			
		視覚環境認識・理解特論	2	清 水 郁 子			
		ヒューマンインタラクション特論	2	倉 掛 正 治			
		マルチモーダル情報処理特論	2	倉 掛 正 治			
		科 学 技 術 文 技 法	2	柴 山 純・藤 澤 剛 李 磊・彌 富 仁 笠原崇史・和佐州洋			
		暗 号 と そ の 応 用	2	真 鍋 義 文 (I I S T)			○
		応用情報工学特別研究1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	1年次必修		
		応用情報工学特別研究1 B	2	研 究 指 導 担 当 者	1年次必修		
		応用情報工学特別研究2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	2年次必修		
		応用情報工学特別研究2 B	2	研 究 指 導 担 当 者	2年次必修		
		応用情報工学特別実験1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	1年次必修		
		応用情報工学特別実験1 B	1	研 究 指 導 担 当 者	1年次必修		
		応用情報工学特別実験2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	2年次必修		
		応用情報工学特別実験2 B	1	研 究 指 導 担 当 者	2年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究1 A・特別実験1 A
	秋学期	特別研究1 B・特別実験1 B
2 年次	春学期	特別研究2 A・特別実験2 A
	秋学期	特別研究2 B・特別実験2 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。([例1] 参照)

[例1]

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究1 A・特別実験1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究1 B・特別実験1 B
		秋学期	特別研究2 A・特別実験2 A
3 年目	2 年次(留級)	春学期	特別研究2 B・特別実験2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2」・「特別実験 1・2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。([例 2] 参照)

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

(2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考
応 用 情 報 工 学 プ ロ ジ ェ ク ト	2	尾川・金井・品川 李・周・和田・彌富 余・和佐・山岸	必修 (コースワーク科目)
計 算 機 工 学 特 別 研 究 1 A・2 A・3 A	各 1	李 磊	
計 算 機 工 学 特 別 研 究 1 B・2 B・3 B	各 2	李 磊	
計 算 機 工 学 特 別 実 験 1 A・2 A・3 A	各 1	李 磊	
計 算 機 工 学 特 別 実 験 1 B・2 B・3 B	各 1	李 磊	
計 算 機 工 学 特 別 研 究 1 A・2 A・3 A	各 1	和 田 幸 一	
計 算 機 工 学 特 別 研 究 1 B・2 B・3 B	各 2	和 田 幸 一	
計 算 機 工 学 特 別 実 験 1 A・2 A・3 A	各 1	和 田 幸 一	
計 算 機 工 学 特 別 実 験 1 B・2 B・3 B	各 1	和 田 幸 一	
計 算 機 工 学 特 別 研 究 1 A・2 A・3 A	各 1	和 佐 州 洋	
計 算 機 工 学 特 別 研 究 1 B・2 B・3 B	各 2	和 佐 州 洋	
計 算 機 工 学 特 別 実 験 1 A・2 A・3 A	各 1	和 佐 州 洋	
計 算 機 工 学 特 別 実 験 1 B・2 B・3 B	各 1	和 佐 州 洋	
情 報 ネットワーク工学特別研究 1 A・2 A・3 A	各 1	金 井 敦	
情 報 ネットワーク工学特別研究 1 B・2 B・3 B	各 2	金 井 敦	
情 報 ネットワーク工学特別実験 1 A・2 A・3 A	各 1	金 井 敦	
情 報 ネットワーク工学特別実験 1 B・2 B・3 B	各 1	金 井 敦	
情 報 ネットワーク工学特別研究 1 A・2 A・3 A	各 1	品 川 満	
情 報 ネットワーク工学特別研究 1 B・2 B・3 B	各 2	品 川 満	
情 報 ネットワーク工学特別実験 1 A・2 A・3 A	各 1	品 川 満	
情 報 ネットワーク工学特別実験 1 B・2 B・3 B	各 1	品 川 満	
情 報 ネットワーク工学特別研究 1 A・2 A・3 A	各 1	藤 井 章 博	
情 報 ネットワーク工学特別研究 1 B・2 B・3 B	各 2	藤 井 章 博	

情報ネットワーク工学特別実験1 A・2 A・3 A	各1	藤 井 章 博	
情報ネットワーク工学特別実験1 B・2 B・3 B	各1	藤 井 章 博	
情報処理工学特別研究1 A・2 A・3 A	各1	尾 川 浩 一	
情報処理工学特別研究1 B・2 B・3 B	各2	尾 川 浩 一	
情報処理工学特別実験1 A・2 A・3 A	各1	尾 川 浩 一	
情報処理工学特別実験1 B・2 B・3 B	各1	尾 川 浩 一	
情報処理工学特別研究1 A・2 A・3 A	各1	彌 富 仁	
情報処理工学特別研究1 B・2 B・3 B	各2	彌 富 仁	
情報処理工学特別実験1 A・2 A・3 A	各1	彌 富 仁	
情報処理工学特別実験1 B・2 B・3 B	各1	彌 富 仁	
情報処理工学特別研究1 A・2 A・3 A	各1	周 金 佳	
情報処理工学特別研究1 B・2 B・3 B	各2	周 金 佳	
情報処理工学特別実験1 A・2 A・3 A	各1	周 金 佳	
情報処理工学特別実験1 B・2 B・3 B	各1	周 金 佳	
人間情報工学特別研究1 A・2 A・3 A	各1	余 恪 平	
人間情報工学特別研究1 B・2 B・3 B	各2	余 恪 平	
人間情報工学特別実験1 A・2 A・3 A	各1	余 恪 平	
人間情報工学特別実験1 B・2 B・3 B	各1	余 恪 平	
人間情報工学特別研究1 A・2 A・3 A	各1	山 岸 昌 夫	
人間情報工学特別研究1 B・2 B・3 B	各2	山 岸 昌 夫	
人間情報工学特別実験1 A・2 A・3 A	各1	山 岸 昌 夫	
人間情報工学特別実験1 B・2 B・3 B	各1	山 岸 昌 夫	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 B→3 A→3 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究1 A・特別実験1 A
	秋学期	特別研究1 B・特別実験1 B
2 年次	春学期	特別研究2 A・特別実験2 A
	秋学期	特別研究2 B・特別実験2 B
3 年次	春学期	特別研究3 A・特別実験3 A
	秋学期	特別研究3 B・特別実験3 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究1 A・特別実験1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究1 B・特別実験1 B
		秋学期	特別研究2 A・特別実験2 A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究2 B・特別実験2 B
		秋学期	特別研究3 A・特別実験3 A
4 年目	3 年次（留級）	春学期	特別研究3 B・特別実験3 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2・3」・「特別実験 1・2・3」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」、3 年次に「特別研究 3 A」・「特別実験 3 A」・「特別研究 3 B」・「特別実験 3 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（[例 2] 参照）

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

◎コースワーク科目は必修である。

◎「特別研究」（計 9 単位）・「特別実験」（計 6 単位）とコースワーク科目（2 単位）を含む 17 単位を修得すること。

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル①

養成
人材像

- 最先端の計算機工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	計算機システム工学特論1	
		基幹科目		2	離散アルゴリズム特論1	
		基幹科目		2	理論計算機科学特論1	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究1A	1年次必修科目
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	計算機システム工学特論2	
		基幹科目		2	離散アルゴリズム特論2	
		基幹科目		2	理論計算機科学特論2	
		—	2		応用情報工学特別研究1B	1年次必修科目
		—	1		応用情報工学特別実験1B	1年次必修科目
	春学期	展開科目		2	プログラム意味論特論	
		—	1		応用情報工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		応用情報工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	展開科目		2	自然言語処理特論	
		展開科目		2	データマイニング特論	
		展開科目		2	計算幾何学特論	
		—	2		応用情報工学特別研究2B	2年次必修科目
—		1		応用情報工学特別実験2B	2年次必修科目	
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力想定される
進路先

- 計算機工学に関する専門知識。
- システム研究開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力
- システムインテグレータ、コンピュータメーカーをはじめとする、電機メーカー、ITベンチャー、通信事業者等。

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル②

養成
人材像

- 最先端の通信ネットワーク工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材。

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	通信ネットワーク特論1	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	分散処理システム特論1	
		基幹科目		2	無線ネットワーク特論1	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究1A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	通信ネットワーク特論2	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	分散処理システム特論2	
		基幹科目		2	無線ネットワーク特論2	
		—	2		応用情報工学特別研究1B	
		—	1		応用情報工学特別実験1B	
M2	春学期	展開科目		2	センサーネット特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		展開科目		2	インターネットとイノベーション特論	
		—	1		応用情報工学特別研究2A	
		—	1		応用情報工学特別実験2A	
	秋学期	展開科目		2	情報処理未来洞察特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		展開科目		2	データマイニング特論	
		—	2		応用情報工学特別研究2B	
		—	1		応用情報工学特別実験2B	
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力想定される
進路先

- 通信ネットワーク工学に関する専門知識。
- システム研究開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力
- 通信事業者、ISPをはじめとする、システムインテグレータ、電機メーカー、コンピュータメーカー、ITベンチャー等。

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル③

養成
人材像

- ・最先端の情報処理工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材。

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	情報信号処理工学特論1	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	画像工学特論1	
		基幹科目		2	知の情報処理特論1	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究1A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	情報信号処理工学特論2	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	画像工学特論2	
		基幹科目		2	知の情報処理特論2	
		—	2		応用情報工学特別研究1B	
		—	1		応用情報工学特別実験1B	
M2	春学期	展開科目		2	応用信号処理特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		展開科目		2	学習アルゴリズム特論	
		—	1		応用情報工学特別研究2A	
		—	1		応用情報工学特別実験2A	
		展開科目		2	画像解析特論	
	秋学期	展開科目		2	データマイニング特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		—	2		応用情報工学特別研究2B	
		—	1		応用情報工学特別実験2B	
		—				
		—				
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力
想定される
進路先

- ・情報処理工学に関する専門知識。
- ・システム研究開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力
- ・電機メーカ、医療機器メーカをはじめとする、コンピュータメーカ、ITベンチャーなど、システムインテグレータ等。

応用情報工学専攻 修士課程 履修モデル④

養成
人材像

- ・最先端の人間情報工学分野で国際的な研究開発を担う中核人材。

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	感性情報処理システム特論1	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	脳情報処理特論1	
		展開科目		2	学習アルゴリズム特論	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別研究1A	
		研究実践科目	1		応用情報工学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	感性情報処理システム特論2	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	脳情報処理特論2	
		展開科目		2	感覚・感性センシング特論	
		展開科目		2	視覚環境認識・理解特論	
		—	2		応用情報工学特別研究1B	
—	1		応用情報工学特別実験1B			
M2	春学期	展開科目		2	3次元モデリング特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		展開科目		2	ヒューマンインタラクション特論	
		展開科目		2	マルチモーダル情報処理特論	
		—	1		応用情報工学特別研究2A	
		—	1		応用情報工学特別実験2A	
	秋学期	—	2		応用情報工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		応用情報工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力
想定される
進路先

- ・人間情報工学に関する専門知識。
- ・システム開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力。
- ・電機メーカ、コンピュータメーカをはじめとする、システムインテグレータ、ITベンチャー、通信事業者等。

応用情報工学専攻 博士後期課程 履修モデル

養成
人材像

- ・自立して世界最先端で創造的な研究活動を行うことができる研究開発者

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考	
			必修	選択			
D1	春学期	—		1	計算機工学特別研究1A		
		—		1	計算機工学特別実験1A		
	秋学期	—		2	(計算機工学特別研究1B		必修
		—		1	(計算機工学特別実験1B 応用情報工学プロジェクト		
D2	春学期	—		1	計算機工学特別研究2A		
		—		1	計算機工学特別実験2A		
	秋学期	—		2	計算機工学特別研究2B		
		—		1	計算機工学特別実験2B		
D3	春学期	—		1	計算機工学特別研究3A		
		—		1	計算機工学特別実験3A		
	秋学期	—		2	計算機工学特別研究3B		
		—		1	計算機工学特別実験3B		
修得単位数		小計	2	15			
		合計	17				

身につく
能力
想定される
進路先

- ・計算機工学に関する知識、課題設定および解決能力。
- ・研究遂行能力、システム開発力、専門的プログラミング能力、テクニカルライティング・プレゼン能力。
- ・大学、企業での研究・教育者、システムインテグレータ、コンピュータメーカーをはじめとする、電機メーカー、ITベンチャー、通信事業者等。

5 (理工学研究科) システム理工学専攻

(1) 修士課程授業科目および担当者一覧

システム理工学専攻(創生科学系) 授業科目

		授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
基礎 科学 領域	創 生 科 学 系	計 算 工 学 特 論 1	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
		計 算 工 学 特 論 2	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
		言 語 科 学 特 論 1	2	担 当 者 未 定	本年度休講	偶数年	
		機 械 学 習 特 論 1	2	柴 田 千 尋	本年度休講	偶数年	
		機 械 学 習 特 論 2	2	柴 田 千 尋		奇数年	
		応用論理・数理言語学特論1	2	金 沢 誠	本年度休講	偶数年	○
		応用論理・数理言語学特論2	2	金 沢 誠		奇数年	○
		データサイエンス特論	2	堤 瑛 美 子			
		最 適 制 御 特 論	2	木 山 健			
		システム・モデリング特論	2	木 山 健			
		知能化センシングシステム特論	2	小 林 一 行			
		センサ信号処理特論	2	小 林 一 行			○
		天体宇宙物理学特論	2	小 宮 山 裕			
		天体宇宙観測特論	2	小 宮 山 裕			
		時空間物理学特論1	2	佐 藤 修 一		奇数年	
		時空間物理学特論2	2	佐 藤 修 一	本年度休講	偶数年	
		銀 河 考 古 学 特 論	2	田 中 幹 人			
		天 文 文 化 特 論	2	田 中 幹 人			
		リスクマネジメント特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	偶数年	
		e ビ ジ ネ ス 特 論	2	呉 暁 林		奇数年	
		量子エレクトロニクス特論	2	松 尾 由 賀 利			
		原子分子物理特論	2	松 尾 由 賀 利			
		最適化モデリング特論1	2	鮎 川 矩 義			
		最適化モデリング特論2	2	鮎 川 矩 義			
		人 間 工 学 特 論	2	鈴 木 郁		奇数年	
		生体情報信号処理特論	2	鈴 木 郁	本年度休講	偶数年	
		産業人間科学特論1	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
		産 業 経 済 分 析 特 論	2	呉 暁 林	本年度休講	偶数年	
		フィールドワーク特論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	偶数年	
		言語能力評価特論	2	柳 川 浩 三	本年度休講	偶数年	
		科 学 技 術 英 語 表 現	2	担 当 者 未 定	本年度休講		
		応用認知心理学特論1	2	山 本 晃 輔		奇数年	
		応用認知心理学特論2	2	山 本 晃 輔	本年度休講	偶数年	
		ロボットプログラミング	2	田 胡 和 哉			

		授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
発展科目	創 生 科 学 領 域	知 識 獲 得 特 論	2	劉 健 全			○
		インテリジェントセンシング	2	佐 藤 浩 志			
		シ ス テ ム 診 断 特 論	2	佐 藤 浩 志			
		人 工 知 能 特 論	2	高 間 康 史			
		電 子 回 路 特 論	2	今 枝 佑 輔			
		相 対 性 理 論	2	今 枝 佑 輔			
		標 準 計 測 特 論	2	今 枝 佑 輔			
		固 体 物 性 応 用	2	永 崎 洋			
		量 子 物 性 デ バ イ ス	2	小 野 新 平			
		固 体 物 理 学 特 論	2	百 瀬 孝 昌			
		システム理工学特別研究1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別研究1 B	2	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別研究2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		
		システム理工学特別研究2 B	2	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		
		システム理工学特別実験1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別実験1 B	1	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別実験2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		
		システム理工学特別実験2 B	1	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究1 A・特別実験1 A
	秋学期	特別研究1 B・特別実験1 B
2 年次	春学期	特別研究2 A・特別実験2 A
	秋学期	特別研究2 B・特別実験2 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例1〕参照）

〔例1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究1 A・特別実験1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究1 B・特別実験1 B
		秋学期	特別研究2 A・特別実験2 A
3 年目	2 年次（留級）	春学期	特別研究2 B・特別実験2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究1・2」・「特別実験1・2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究1」・「特別実験1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究2 A」・「特別実験2 A」・「特別研究2 B」・「特別実験2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例2〕参照）

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1 ・ 特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

◎授業科目一覧の基礎科目・発展科目内の配当科目から、それぞれ指定された数以上の科目を受講すること。

基礎科目 - 4単位 (2 科目) 以上 発展科目 - 2単位 (1 科目) 以上

※経営システム系授業科目 基礎科目- 4単位 (2 科目) 以上、発展科目- 2単位 (1 科目) 以上を履修しても上記の要件に含まれる。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

システム理工学専攻（経営システム系）授業科目

		授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語 対応
基礎 科目	経営 システム 領域	関 数 解 析 特 論 1	2	磯 島 伸		奇数年	○
		関 数 解 析 特 論 2	2	磯 島 伸	本年度休講	偶数年	○
		確 率 過 程 特 論 1	2	安 田 和 弘			○
		確 率 過 程 特 論 2	2	安 田 和 弘			○
		数 値 計 算 法 特 論	2	五 島 洋 行	本年度休講	偶数年	○
		最適化ファイナンス特論	2	林 俊 介			○
		オペレーションズ・リサーチ特論1	2	田 村 信 幸	本年度休講	偶数年	○
		計 量 経 済 学 特 論 1	2	劉 慶 豊	「計量経済学 特論」を履修済 みの場合は履 修不可	奇数年	○
		先 進 経 営 科 学 特 論	2	高澤・千葉・林 磯島・寺杣・安田・田村			○
発 展 科 目	経 営 シ ス テ ム 領 域	オペレーションズ・リサーチ特論2	2	千 葉 英 史		奇数年	○
		確率システム解析特論	2	田 村 信 幸		奇数年	
		デリバティブ理論特論	2	畑 宏 明			○
		生 産 情 報 特 論	2	作 村 建 紀			
		信 頼 性 工 学 特 論	2	木 村 光 宏			
		応 用 経 済 分 析 特 論	2	殷 婷			
		符 号 理 論 特 論 1	2	寺 杣 友 秀		奇数年	○
		符 号 理 論 特 論 2	2	寺 杣 友 秀	本年度休講	偶数年	
		公 共 経 済 学 特 論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	偶数年	
		応 用 金 融 分 析 特 論	2	担 当 者 未 定	本年度休講	奇数年	○
		離 散 最 適 化 特 論 1	2	高 澤 兼 二 郎	本年度休講	偶数年	○
		離 散 最 適 化 特 論 2	2	高 澤 兼 二 郎		奇数年	○
		暗 号 と そ の 応 用	2	真 鍋 義 文 (IIST)			○
		システム理工学特別研究1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別研究1 B	2	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別研究2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		
		システム理工学特別研究2 B	2	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		
		システム理工学特別実験1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別実験1 B	1	研 究 指 導 担 当 者	1 年次必修		
		システム理工学特別実験2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		
		システム理工学特別実験2 B	1	研 究 指 導 担 当 者	2 年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

次頁の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	2 年次（留級）	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2」・「特別実験 1・2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕参照）

〔例 2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B

◎「特別研究」（計 6 単位）・「特別実験」（計 4 単位）を含む 30 単位を修得すること。

◎授業科目一覧の基礎科目・発展科目内の配当科目から、それぞれ指定された数以上の科目を受講すること。

基礎科目 - 4単位（2 科目）以上 発展科目 - 2単位（1 科目）以上
--

※創生科学系授業科目 基礎科目- 4単位（2 科目）以上、発展科目- 2単位（1 科目）以上を履修しても上記の要件に含まれる。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

(2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
創 生 科 学 博 士 プ ロ ジ ェ ク ト	2	小林・佐藤・鈴木 松尾・金沢・田中 柴田・小宮山・鮎川	必修【創生】 (コースワーク科目)
経営システム工学コアスタディ	2	五 島 洋 行	必修【経営】 (コースワーク科目)
計測システム特別研究1A・2A・3A	各1	小 宮 山 裕	
計測システム特別研究1B・2B・3B	各2	小 宮 山 裕	
計測システム特別実験1A・2A・3A	各1	小 宮 山 裕	
計測システム特別実験1B・2B・3B	各1	小 宮 山 裕	
計測システム特別研究1A・2A・3A	各1	佐 藤 修 一	
計測システム特別研究1B・2B・3B	各2	佐 藤 修 一	
計測システム特別実験1A・2A・3A	各1	佐 藤 修 一	
計測システム特別実験1B・2B・3B	各1	佐 藤 修 一	
計測システム特別研究1A・2A・3A	各1	田 中 幹 人	
計測システム特別研究1B・2B・3B	各2	田 中 幹 人	
計測システム特別実験1A・2A・3A	各1	田 中 幹 人	
計測システム特別実験1B・2B・3B	各1	田 中 幹 人	
数理科学特別研究1A・2A・3A	各1	柴 田 千 尋	
数理科学特別研究1B・2B・3B	各2	柴 田 千 尋	
数理科学特別実験1A・2A・3A	各1	柴 田 千 尋	
数理科学特別実験1B・2B・3B	各1	柴 田 千 尋	
数理科学特別研究1A・2A・3A	各1	鮎 川 矩 義	
数理科学特別研究1B・2B・3B	各2	鮎 川 矩 義	
数理科学特別実験1A・2A・3A	各1	鮎 川 矩 義	
数理科学特別実験1B・2B・3B	各1	鮎 川 矩 義	
制御システム特別研究1A・2A・3A	各1	小 林 一 行	
制御システム特別研究1B・2B・3B	各2	小 林 一 行	
制御システム特別実験1A・2A・3A	各1	小 林 一 行	
制御システム特別実験1B・2B・3B	各1	小 林 一 行	
計算工学特別研究1A・2A・3A	各1	金 沢 誠	
計算工学特別研究1B・2B・3B	各2	金 沢 誠	
計算工学特別実験1A・2A・3A	各1	金 沢 誠	
計算工学特別実験1B・2B・3B	各1	金 沢 誠	
物質科学特別研究1A・2A・3A	各1	松 尾 由 賀 利	
物質科学特別研究1B・2B・3B	各2	松 尾 由 賀 利	
物質科学特別実験1A・2A・3A	各1	松 尾 由 賀 利	
物質科学特別実験1B・2B・3B	各1	松 尾 由 賀 利	
水工学特別研究1A・2A・3A	各1	担 当 者 未 定	
水工学特別研究1B・2B・3B	各2	担 当 者 未 定	
水工学特別実験1A・2A・3A	各1	担 当 者 未 定	

授 業 科 目	単 位	担 当 者	備 考
水工学特別実験1B・2B・3B	各1	担 当 者 未 定	
人間システム特別研究1A・2A・3A	各1	鈴 木 郁	
人間システム特別研究1B・2B・3B	各2	鈴 木 郁	
人間システム特別実験1A・2A・3A	各1	鈴 木 郁	
人間システム特別実験1B・2B・3B	各1	鈴 木 郁	
応用統計工学特別研究1A・2A・3A	各1	田 村 信 幸	
応用統計工学特別研究1B・2B・3B	各2	田 村 信 幸	
応用統計工学特別実験1A・2A・3A	各1	田 村 信 幸	
応用統計工学特別実験1B・2B・3B	各1	田 村 信 幸	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	木 村 光 宏	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	木 村 光 宏	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	木 村 光 宏	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	木 村 光 宏	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	五 島 洋 行	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	五 島 洋 行	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	五 島 洋 行	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	五 島 洋 行	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	寺 杣 友 秀	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	寺 杣 友 秀	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	寺 杣 友 秀	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	寺 杣 友 秀	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	磯 島 伸	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	磯 島 伸	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	磯 島 伸	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	磯 島 伸	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	林 俊 介	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	林 俊 介	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	林 俊 介	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	林 俊 介	
応用数理工学特別研究1A・2A・3A	各1	高 澤 兼 二 郎	
応用数理工学特別研究1B・2B・3B	各2	高 澤 兼 二 郎	
応用数理工学特別実験1A・2A・3A	各1	高 澤 兼 二 郎	
応用数理工学特別実験1B・2B・3B	各1	高 澤 兼 二 郎	
応用経済分析特別研究1A・2A・3A	各1	劉 慶 豊	
応用経済分析特別研究1B・2B・3B	各2	劉 慶 豊	
応用経済分析特別実験1A・2A・3A	各1	劉 慶 豊	
応用経済分析特別実験1B・2B・3B	各1	劉 慶 豊	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 B→3 A→3 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A・特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B・特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
		秋学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
4 年目	3 年次（留級）	春学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1・2・3」・「特別実験 1・2・3」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」「特別実験 2 A」「特別研究 2 B」「特別実験 2 B」、3 年次に「特別研究 3 A」「特別実験 3 A」「特別研究 3 B」「特別実験 3 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕参照）

〔例 2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1・特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A・特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B・特別実験 2 B
3 年次	春学期	特別研究 3 A・特別実験 3 A
	秋学期	特別研究 3 B・特別実験 3 B

◎コースワーク科目は必修である。創生科学系は「創生科学博士プロジェクト」、経営システム系は「経営システム工学コアスタディ」を履修すること。

◎「特別研究」（計 9 単位）・「特別実験」（計 6 単位）とコースワーク科目（2 単位）を含む 17 単位を修得すること。

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル①

養成
人材像

- ・システム理工学に関する問題を知能科学、数理科学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論1	
	基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙物理学特論	
	実践科目	1		システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
	実践科目	1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論1	
	基礎科目 創生科学領域		2	天体宇宙観測特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	応用論理・数理言語学特論1	
	基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論2	
	—	2		システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
	—	1		システム理工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	発展科目 創生科学領域		2	人工知能特論	
	発展科目 創生科学領域		2	知識獲得特論	
	—	1		システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
	—	1		システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	基礎科目 創生科学領域		2	データサイエンス特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	応用論理・数理言語学特論2	
	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論1	
	—	2		システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
	—	1		システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数	小計	10	22	
		合計	32		

身につく
能力

- ・知能科学、数理科学の観点から問題を導き出し、表現できる能力。
- ・知能科学、数理科学の観点から問題を積極的に解決できる専門能力。

想定される
進路先

- ・システム理工学の観点から物事を捉えることのできる技術者を必要とする業界・業種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル②

養成
人材像

- ・システム理工学に関する問題を知能科学、制御工学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	基礎科目 創生科学領域		2	システム・モデリング特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	知能化センシングシステム特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	生体情報信号処理特論	
	実践科目	1		システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
	実践科目	1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	基礎科目 創生科学領域		2	最適制御特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	センサ信号処理特論	
	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論1	
	—	2		システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
	—	1		システム理工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	発展科目 創生科学領域		2	インテリジェントセンシング	
	発展科目 創生科学領域		2	人工知能特論	
	—	1		システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
	—	1		システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論2	
	発展科目 創生科学領域		2	システム診断特論	
	—	2		システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
	—	1		システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数	小計	10	20	
		合計	30		

身につく
能力

- ・システム理工学の観点からシステムを的確にモデリングできる能力
- ・システム理工学の観点から問題点を把握し、制御工学を駆使し解決できる能力

想定される
進路先

- ・システム理工学を必要とする分野、特に、計測制御分野、計装分野を必要とする業界・業種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル③

養成
人材像

- システム理工学に関する問題を物理科学、センシング工学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域	2	天体宇宙物理学特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	時空間物理学特論1	
		基礎科目 創生科学領域	2	銀河考古学特論	
		実践科目	1	システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
		実践科目	1	システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基礎科目 創生科学領域	2	天体宇宙観測特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	天文文化特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	センサ信号処理特論	
		—	2	システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
		—	1	システム理工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	基礎科目 創生科学領域	2	時空間物理学特論2	
		発展科目 創生科学領域	2	標準計測特論	
		—	1	システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1	システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	発展科目 創生科学領域	2	相対性理論	
		発展科目 創生科学領域	2	電子回路特論	
		—	2	システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1	システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数		小計	10	20
			合計	30	

身につく
能力

- 現象の本質を理解し、物理的数学的に表現する能力
- 伝統的・革新的手法を駆使して問題を解決に導く能力

想定される
進路先

- 製造業・研究機関等、問題解決型の職種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル④

養成
人材像

- システム理工学に関する問題を物理学、物質科学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域	2	天体宇宙物理学特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	量子エレクトロニクス特論	
		発展科目 創生科学領域	2	標準計測特論	
		実践科目	1	システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
		実践科目	1	システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基礎科目 創生科学領域	2	最適制御特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	原子分子物理特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	センサ信号処理特論	
		基礎科目 創生科学領域	2	天体宇宙観測特論	
		—	2	システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
	春学期	発展科目 創生科学領域	2	固体物理学特論	春学期集中
		発展科目 創生科学領域	2	量子物性デバイス	春学期集中
		発展科目 創生科学領域	2	固体物性応用	春学期集中
		—	1	システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1	システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	—	2	システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1	システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
	修得単位数		小計	10	20
			合計	30	

身につく
能力

- 現象の意味・意義を理論的に捉える能力
- 物理・数学の手法を用いて問題を解決していける能力

想定される
進路先

- 製造業・研究機関等、問題解決型の職種

システム理工学専攻(創生科学系) 修士課程 履修モデル⑤

養成
人材像

- ・システム理工学に関する問題を人間科学、人間工学の観点から把握・解決できる高度な専門技術者・研究者

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	人間工学特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論1	
		基礎科目 創生科学領域		2	応用認知心理学特論1	
		実践科目	1		システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
		実践科目	1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基礎科目 創生科学領域		2	機械学習特論1	
		基礎科目 創生科学領域		2	最適化モデリング特論2	
		基礎科目 創生科学領域		2	データサイエンス特論	
		－	2		システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
		－	1		システム理工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	基礎科目 創生科学領域		2	生体情報信号処理特論	
		基礎科目 創生科学領域		2	応用認知心理学特論2	
		発展科目 創生科学領域		2	知識獲得特論	
		－	1		システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
		－	1		システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	発展科目 創生科学領域		2	人工知能特論	
		－	2		システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
		－	1		システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- ・人間科学、人間工学の観点から問題を導き出し、表現できる能力。
- ・人間科学、人間工学の観点から問題を積極的に解決できる専門能力。

想定される
進路先

- ・人間科学、人間工学の観点から物事を捉えることのできる能力を必要とする業界・業種

システム理工学専攻(創生科学系) 博士後期課程 履修モデル

養成
人材像

- ・研究者として自立して研究活動を行い、システム理工学の観点から問題を把握・解決できる高度な研究者

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—		1	数理科学特別研究1A	
		—		1	数理科学特別実験1A	
	秋学期	—		2	数理科学特別研究1B	
		—		1	数理科学特別実験1B	
D2	春学期	—		1	数理科学特別研究2A	
		—		1	数理科学特別実験2A	
	秋学期	—		2	数理科学特別研究2B	
		—	2	1	数理科学特別実験2B 創生科学博士プロジェクト	
D3	春学期	—		1	数理科学特別研究3A	
		—		1	数理科学特別実験3A	
	秋学期	—		2	数理科学特別研究3B	
		—		1	数理科学特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力

- ・高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識および、プレゼンテーション能力

想定される
進路先

- ・国内外の企業の研究所及び大学教員

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル①

養成
人材像

- ・システムの問題を数理的に解決できる人

年次		科目区分		単位数		授業科目	備考
				必修	選択		
M1	春学期	基礎科目	経営システム領域		2	数値計算法特論	
		基礎科目	経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論1	
		基礎科目	経営システム領域		2	確率過程特論1	
		基礎科目	経営システム領域		2	計量経済学特論1	
		実践科目		1		システム理工学特別研究1A	
	秋学期	実践科目		1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
		基礎科目	経営システム領域		2	関数解析特論1または2	
		基礎科目	経営システム領域		2	確率過程特論2	
		発展科目	経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論2	
		実践科目		2		システム理工学特別研究1B	
実践科目		1		システム理工学特別実験1B			
M2	春学期	発展科目	経営システム領域		2	符号理論特論1または2	
		発展科目	経営システム領域		2	確率システム解析特論	
		実践科目		1		システム理工学特別研究2A	
		実践科目		1		システム理工学特別実験2A	
	秋学期	発展科目	経営システム領域		2	離散最適化特論1または2	
		実践科目		2		システム理工学特別研究2B	
		実践科目		1		システム理工学特別実験2B	
修得単位数		小計	10	20	※隔年開講科目に注意すること。		
		合計	30				

身につく
能力

- ・事業システムなどを数理的に表現することができる能力
- ・現実的な環境の中で、システムの最適な運営方法を見つけ出す能力

想定される
進路先

- ・企業や行政機関などでシステムの設計、運用、改善を行う

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル②

養成
人材像

- ・金融技術をリードするエンジニア

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基礎科目 経営システム領域		2	数値計算法特論	
		基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論1	
		基礎科目 経営システム領域		2	計量経済学特論1	
		発展科目 経営システム領域		2	デリバティブ理論特論	
		実践科目	1		システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
		実践科目	1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基礎科目 経営システム領域		2	関数解析特論1または2	
		基礎科目 経営システム領域		2	確率過程特論2	
		基礎科目 経営システム領域		2	最適化ファイナンス特論	
		発展科目 経営システム領域		2	応用金融分析特論	
実践科目		2		システム理工学特別研究1B	1年次必修科目	
	実践科目	1		システム理工学特別実験1B	1年次必修科目	
M2	春学期	発展科目 経営システム領域		2	確率システム解析特論	
		実践科目	1		システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
		実践科目	1		システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	実践科目	2		システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
		実践科目	1		システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20	※隔年開講科目に注意すること。また、1または2となっている科目については、両科目の履修も各自の研究計画に合わせて行うこと。	
		合計	30			

身につく
能力

- ・新たな金融商品やリスク・マネジメントの方法を提案する能力
- ・企業財務管理、年金運用などの最適化を行う能力

想定される
進路先

- ・銀行、証券、保険などの金融機関、企業の財務管理、社会保障関連

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル③

養成
人材像

- ・経済社会の仕組みと動きを理解し、予測やシステムの設計にあたる人

年次		科目区分		単位数		授業科目	備考
				必修	選択		
M1	春学期	基礎科目	経営システム領域		2	確率過程特論1	
		基礎科目	経営システム領域		2	最適化ファイナンス特論	
		基礎科目	経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論1	
		基礎科目	経営システム領域		2	計量経済学特論1	
		実践科目		1		システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基礎科目	経営システム領域		2	確率過程特論2	
		発展科目	経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論2	
		発展科目	経営システム領域		2	応用金融分析特論	
		発展科目	経営システム領域		2	応用経済分析特論	
		実践科目		2		システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	発展科目	経営システム領域		2	確率システム解析特論	
		実践科目		1		システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	発展科目	経営システム領域		2	公共経済学特論	
		実践科目		2		システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20	※隔年開講科目に注意すること		
		合計	30				

身につく
能力想定される
進路先

- ・経済システム、社会システムを数理的に表現し、予測などに役立てる能力
- ・経済システム、社会システムを設計・改善し、評価する能力

- ・国・地方自治体、企業の調査・マーケティング部門、民間調査機関など

システム理工学専攻(経営システム系) 修士課程 履修モデル④

養成
人材像

- ・生産、流通の管理、効率・性能向上にあたる人

年次		科目区分		単位数		授業科目	備考
				必修	選択		
M1	春学期	基礎科目	経営システム領域		2	確率過程特論1	
		基礎科目	経営システム領域		2	数値計算法特論	
		基礎科目	経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論1	
		基礎科目	創生科学領域		2	人間工学特論	
		基礎科目	創生科学領域		2	生体情報信号処理特論	
		基礎科目	創生科学領域		2	産業心理学特論1	
		発展科目	経営システム領域		2	生産情報特論	
		実践科目		1		システム理工学特別研究1A	1年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基礎科目	経営システム領域		2	確率過程特論2	
		発展科目	経営システム領域		2	オペレーションズ・リサーチ特論2	
		実践科目		2		システム理工学特別研究1B	1年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	発展科目	経営システム領域		2	信頼性工学特論	
		実践科目		1		システム理工学特別研究2A	2年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	実践科目		2		システム理工学特別研究2B	2年次必修科目
		実践科目		1		システム理工学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計		10	20	※隔年開講科目に注意すること	
		合計		30			

身につく
能力想定される
進路先

- ・生産、流通などのシステムを数理的に表現し、最適な設計を行う能力
- ・製品、サービス、ソフトウェアの信頼性を効率的に管理する能力

- ・製造、流通、通信、サービス業などの生産管理、信頼性管理など

システム理工学専攻(経営システム系) 博士後期課程 履修モデル

養成
人材像

- 独創的な工夫と創造で解を求めることができる自立的な研究者

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期			1 1 1 1 1 1 2	応用統計工学特別研究1A 応用数理工学特別研究1A 応用経済分析特別研究1A 応用統計工学特別実験1A 応用数理工学特別実験1A 応用経済工学特別実験1A 経営システム工学コアスタディ	必修
	秋学期			2 2 2 1 1 1	応用統計工学特別研究1B 応用数理工学特別研究1B 応用経済分析特別研究1B 応用統計工学特別実験1B 応用数理工学特別実験1B 応用経済工学特別実験1B	
D2	春学期			1 1 1 1 1	応用統計工学特別研究2A 応用数理工学特別研究2A 応用経済分析特別研究2A 応用統計工学特別実験2A 応用数理工学特別実験2A 応用経済工学特別実験2A	
	秋学期			2 2 2 1 1 1	応用統計工学特別研究2B 応用数理工学特別研究2B 応用経済分析特別研究2B 応用統計工学特別実験2B 応用数理工学特別実験2B 応用経済工学特別実験2B	
D3	春学期			1 1 1 1 1 1	応用統計工学特別研究3A 応用数理工学特別研究3A 応用経済分析特別研究3A 応用統計工学特別実験3A 応用数理工学特別実験3A 応用経済工学特別実験3A	
	秋学期			2 2 2 1 1 1	応用統計工学特別研究3B 応用数理工学特別研究3B 応用経済分析特別研究3B 応用統計工学特別実験3B 応用数理工学特別実験3B 応用経済工学特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力

- システムを数理的に表現し、最適な解を得る能力と基礎となる学識
- 高付加価値の商品やサービスを生み出す能力

想定される
進路先

- 研究機関、企業の研究部門、大学教員など

6 (理工学研究科) 生命機能学専攻

(1) 修士課程授業科目および担当者一覧

生命機能学専攻(生命機能学領域・植物医科学領域) 授業科目

区分	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
基 幹 科 目	ゲノム科学特論	2	佐藤 勉	本年度休講	偶数年	
	蛋白質科学特論	2	曾和 義幸	本年度休講	偶数年	
	細胞生物学特論	2	金子 智行	本年度休講	偶数年	
	生命システム科学特論	2	廣野 雅文	本年度休講	偶数年	
	ゲノム工学特論	2	山中 幸		奇数年	
	蛋白質工学特論	2	常重 アントニオ		奇数年	○
	細胞工学特論	2	水澤 直樹		奇数年	
	生命システム工学特論	2	川岸 郁朗		奇数年	
	基礎植物医科学特論	2	大島研郎・佐野俊夫		奇数年	○
	応用植物医科学特論	2	津田新哉・廣岡裕吏	本年度休講	偶数年	○
	植物病先端研究特論	2	濱本宏・鍵和田聡		奇数年	○
	植物総合診療科学特論	2	池田健太郎・廣岡裕吏	本年度休講	偶数年	○
発 展 科 目	バイオインフォマティクス特論	2	大島 拓			
	生体超分子構造学特論	2	村上 聡			
	生体分子設計特論	2	黒田裕・野口恵一 篠原恭介・黒谷篤之			
	生体分子計測工学特論	2	久保 智広			
	細胞操作工学特論	2	西川 正俊			
	細胞間コミュニケーション特論	2	堀口 安彦	本年度休講		
	画像工学特論 1	2	尾川 浩一 (応用情報工学専攻)		奇数年	○
	画像工学特論 2	2	尾川 浩一 (応用情報工学専攻)	本年度休講	偶数年	
	分子シミュレーション特論	2	高井 和之 (応用化学専攻)		奇数年	○
	有機化学反応特論	2	河内 敦 (応用化学専攻)		奇数年	○
	有機合成化学特論	2	河内 敦 (応用化学専攻)	本年度休講	偶数年	○
	高分子物理化学特論	2	渡辺 敏行 (応用化学専攻)			
	反応工学特論	2	山下 明泰 (応用化学専攻)	本年度休講	偶数年	○
	環境科学特論	2	渡邊 雄二郎 (応用化学専攻)		奇数年	○
	水環境工学特論	2	渡邊 雄二郎 (応用化学専攻)	本年度休講	偶数年	○

区分	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
発 展 科 目	環 境 計 測 特 論	2	中 嶋 吉 弘 (応用化学専攻)			
	環 境 衛 生 学 特 論	2	福島由美子・高橋勉 (応用化学専攻)			
	生物アシミレーション科学特論	2	佐野俊夫・濱本宏	本年度休講	偶数年	○
	植物免疫分子システム学特論	2	鍵和田聡・大島研郎	本年度休講	偶数年	○
	応 用 生 物 生 態 学 特 論	2	大井田寛・池田健太郎		奇数年	○
	植 物 病 原 学 特 論	2	有 江 力			
	植 物 薬 学 総 合 特 論	2	石 川 亮			
	土 壌 環 境 ゲ ノ ム 科 学 特 論	2	吉田重信・大友量 関口博之・越智直			
研 究 実 践 科 目	有 用 植 物 開 発 学 特 論	2	青 木 直 大			
	生 命 機 能 学 演 習 1	2	佐藤勉・金子智行 曾和義幸・廣野雅文	生命機能学領域 開講科目(注1)	奇数年	
	生 命 機 能 学 演 習 2	2	川岸郁朗・常重アヲ 山本兼由・水澤直樹	本年度休講 生命機能学領域 開講科目(注1)	偶数年	
	生 命 機 能 学 特 別 研 究 1 A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 研 究 1 B	2	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 研 究 2 A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 研 究 2 B	2	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 実 験 1 A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 実 験 1 B	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 1年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 実 験 2 A	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
	生 命 機 能 学 特 別 実 験 2 B	1	研究指導担当者	生命機能学領域 開講科目 2年次必修		
践 研 科 究 目 実	植 物 医 科 学 演 習 1	2	濱本宏・大井田寛 池田健太郎・大島研郎	本年度休講 植物医科学領域 開講科目(注2)	偶数年	○
	植 物 医 科 学 演 習 2	2	佐野俊夫・鍵和田聡 廣岡裕史・津田新哉	植物医科学領域 開講科目(注2)	奇数年	○

区分	授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考	隔年開講	英語対応
	植 物 医 学 特 別 研 究 1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 1 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 研 究 1 B	2	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 1 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 研 究 2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 2 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 研 究 2 B	2	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 2 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 実 験 1 A	1	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 1 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 実 験 1 B	1	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 1 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 実 験 2 A	1	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 2 年次必修		
	植 物 医 学 特 別 実 験 2 B	1	研 究 指 導 担 当 者	植物医科学領域 開講科目 2 年次必修		

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1 A→1 B→2 A→2 Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究 1 A ・ 特別実験 1 A
	秋学期	特別研究 1 B ・ 特別実験 1 B
2 年次	春学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例 1〕参照）

〔例 1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究 1 A ・ 特別実験 1 A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究 1 B ・ 特別実験 1 B
		秋学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
3 年目	2 年次（留級）	春学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究 1 ・ 2」・「特別実験 1 ・ 2」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究 1」・「特別実験 1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究 2 A」・「特別実験 2 A」・「特別研究 2 B」・「特別実験 2 B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例 2〕参照）

[例 2]

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究 1 ・ 特別実験 1
2 年次	春学期	特別研究 2 A ・ 特別実験 2 A
	秋学期	特別研究 2 B ・ 特別実験 2 B

◎「特別研究」(計 6 単位)・「特別実験」(計 4 単位)を含む 30 単位を修得すること。

◎授業科目一覧の基礎科目・発展科目・研究実践科目内の配当科目から、それぞれ指定された数以上の科目を受講すること。

基幹科目 - 4単位 (2 科目) 以上
発展科目 - 2単位 (1 科目) 以上
研究実践科目 - 2単位 (1 科目) 以上

(注 1) 生命機能学領域の学生は「生命機能学演習 1」「生命機能学演習 2」の内、いずれかを必ず受講すること。

(注 2) 植物医科学領域の学生は「植物医科学演習 1」「植物医科学演習 2」の内、いずれかを必ず受講すること。

※「英語対応」とは、IIST 生が履修した場合に英語で対応する科目を指す。

※授業の詳細は Web シラバスを参照すること。 <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

(2) 博士後期課程授業科目および担当者一覧

授 業 科 目	単位	担 当 者	備 考
生 命 機 能 学 発 展 ゼ ミ ナ ー ル	2	川岸・金子・佐藤・常重 廣野・水澤・山本・曾和・西川	必修【生命】 (コースワーク科目)
生命機能学発展特別研究 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	川 岸 郁 朗	
生命機能学発展特別研究 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 2	川 岸 郁 朗	
生命機能学発展特別実験 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	川 岸 郁 朗	
生命機能学発展特別実験 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 1	川 岸 郁 朗	
生命機能学発展特別研究 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	佐 藤 勉	
生命機能学発展特別研究 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 2	佐 藤 勉	
生命機能学発展特別実験 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	佐 藤 勉	
生命機能学発展特別実験 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 1	佐 藤 勉	
生命機能学発展特別研究 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	山 本 兼 由	
生命機能学発展特別研究 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 2	山 本 兼 由	
生命機能学発展特別実験 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	山 本 兼 由	
生命機能学発展特別実験 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 1	山 本 兼 由	
生命機能学発展特別研究 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	常 重 アントニオ	
生命機能学発展特別研究 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 2	常 重 アントニオ	
生命機能学発展特別実験 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	常 重 アントニオ	
生命機能学発展特別実験 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 1	常 重 アントニオ	
生命機能学発展特別研究 1 A ・ 2 A ・ 3 A	各 1	金 子 智 行	
生命機能学発展特別研究 1 B ・ 2 B ・ 3 B	各 2	金 子 智 行	

生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	金 子 智 行	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	金 子 智 行	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	廣 野 雅 文	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	廣 野 雅 文	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	廣 野 雅 文	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	廣 野 雅 文	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	水 澤 直 樹	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	水 澤 直 樹	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	水 澤 直 樹	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	水 澤 直 樹	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	曾 和 義 幸	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	曾 和 義 幸	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	曾 和 義 幸	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	曾 和 義 幸	
生命機能学発展特別研究1A・2A・3A	各1	西 川 正 俊	
生命機能学発展特別研究1B・2B・3B	各2	西 川 正 俊	
生命機能学発展特別実験1A・2A・3A	各1	西 川 正 俊	
生命機能学発展特別実験1B・2B・3B	各1	西 川 正 俊	
植 物 医 科 学 発 展 ゼ ミ ナ ー ル	2	大井田・津田・濱本 大島・佐野・廣岡・池田	必修【植物】 (コースワーク科目)
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	津 田 新 哉	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	津 田 新 哉	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	津 田 新 哉	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	津 田 新 哉	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	濱 本 宏	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	濱 本 宏	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	濱 本 宏	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	濱 本 宏	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	大 井 田 寛	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	大 井 田 寛	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	大 井 田 寛	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	大 井 田 寛	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	大 島 研 郎	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	大 島 研 郎	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	大 島 研 郎	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	大 島 研 郎	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	佐 野 俊 夫	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	佐 野 俊 夫	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	佐 野 俊 夫	

植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	佐 野 俊 夫	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	廣 岡 裕 吏	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	廣 岡 裕 吏	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	廣 岡 裕 吏	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	廣 岡 裕 吏	
植物医科学発展特別研究1A・2A・3A	各1	池 田 健 太 郎	
植物医科学発展特別研究1B・2B・3B	各2	池 田 健 太 郎	
植物医科学発展特別実験1A・2A・3A	各1	池 田 健 太 郎	
植物医科学発展特別実験1B・2B・3B	各1	池 田 健 太 郎	

◎研究指導科目「特別研究」・「特別実験」は必修である。

以下の表に従って、指導教員が開講する「特別研究」・「特別実験」を1A→1B→2A→2B→3A→3Bの順で履修すること。

学年	履修期	科目
1 年次	春学期	特別研究1A・特別実験1A
	秋学期	特別研究1B・特別実験1B
2 年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3 年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

休学等により、該当年次・履修期の研究指導科目の単位を取得できなかった場合、アルファベット順に下の学年の科目を先に履修すること。（〔例1〕参照）

〔例1〕

	学年	履修期	科目
1 年目	1 年次	春学期	
		秋学期	特別研究1A・特別実験1A
2 年目	2 年次	春学期	特別研究1B・特別実験1B
		秋学期	特別研究2A・特別実験2A
3 年目	3 年次	春学期	特別研究2B・特別実験2B
		秋学期	特別研究3A・特別実験3A
4 年目	3 年次（留級）	春学期	特別研究3B・特別実験3B

【2023 年度以前入学者】

2023 年度まで開講していた通年科目「特別研究1・2・3」・「特別実験1・2・3」は、2024 年度以降は開講しない。該当年次の半期科目を履修すること。例えば、1 年次に「特別研究1」「特別実験1」を修得済みの方は、2 年次に「特別研究2A」「特別実験2A」「特別研究2B」「特別実験2B」、3 年次に「特別研究3A」「特別実験3A」「特別研究3B」「特別実験3B」を修得することによって、研究指導科目に関する修了要件を満たす。（〔例2〕参照）

〔例2〕

学年	履修期	科目
1 年次	通年	特別研究1・特別実験1
2 年次	春学期	特別研究2A・特別実験2A
	秋学期	特別研究2B・特別実験2B
3 年次	春学期	特別研究3A・特別実験3A
	秋学期	特別研究3B・特別実験3B

- ◎コースワーク科目は必修である。生命機能学領域は「生命機能学発展ゼミナール」、植物医科学領域は「植物医科学発展ゼミナール」を履修すること。
- ◎「特別研究」(計 9 単位)・「特別実験」(計 6 単位)とコースワーク科目(2 単位)を含む 17 単位を修得すること。

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル①

養成
人材像

・ゲノム機能分野の研究者・技術員

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	ゲノム科学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
		基幹科目		2	細胞生物学特論	
		基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究1A	
		研究実践科目	1		生命機能学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	ゲノム工学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		発展科目		2	細胞操作工学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習2	
		—	2		生命機能学特別研究1B	
		—	1		生命機能学特別実験1B	
M2	春学期	発展科目		2	バイオインフォマティクス特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		発展科目		2	生体超分子構造学特論	
		—	1		生命機能学特別研究2A	
		—	1		生命機能学特別実験2A	
	秋学期	—	2		生命機能学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験2B	2年次必修科目
		修得単位数		小計	10	20
		合計	30			

身につく
能力

・多数の機能未知の遺伝子が含まれているゲノムの全遺伝子の機能の全容を理解できる能力

想定される
進路先

・化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所のゲノム機能分野の研究者・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル②

養成
人材像

・蛋白質機能分野の研究者・技術員

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	蛋白質科学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	ゲノム科学特論	
		基幹科目		2	細胞生物学特論	
		基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究1A	
		研究実践科目	1		生命機能学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	蛋白質工学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		発展科目		2	生体分子設計特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習2	
—		2		生命機能学特別研究1B		
	—	1		生命機能学特別実験1B		
M2	春学期	発展科目		2	生体超分子構造学特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		発展科目		2	生体分子計測工学特論	
		—	1		生命機能学特別研究2A	
		—	1		生命機能学特別実験2A	
	秋学期	—	2		生命機能学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- ・多様な機能を担う蛋白質分子が立体的に折りたたまれて機能を発揮するメカニズムを理解できる能力
- ・構造と機能の改変や新しい人工蛋白質を設計できる能力

想定される
進路先

・化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所の蛋白質機能分野の研究者・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル③

養成
人材像

• 細胞機能分野の研究員・技術員

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	細胞生物学特論	
		基幹科目		2	ゲノム科学特論	
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
		基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習1	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究1A	1年次必修科目
		研究実践科目	1		生命機能学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	細胞工学特論	
		発展科目		2	細胞操作工学特論	
		研究実践科目		2	生命機能学演習2	
		—	2		生命機能学特別研究1B	1年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験1B	1年次必修科目
M2	春学期	発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	
		—	1		生命機能学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	発展科目		2	細胞操作工学特論	
		—	2		生命機能学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

• 動物および植物細胞の増殖・分化・情報処理・恒常性維持などの分子メカニズムを理解できる能力

想定される
進路先

• 化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所の細胞機能分野の研究員・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル④

養成
人材像

• 生命システム機能分野の研究員・技術員

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
M1	春学期	基幹科目	2	生命システム科学特論	
		基幹科目	2	ゲノム科学特論	
		基幹科目	2	蛋白質科学特論	
		基幹科目	2	細胞生物学特論	
		研究実践科目	2	生命機能学演習1	
		研究実践科目	1	生命機能学特別研究1A	1年次必修科目
		研究実践科目	1	生命機能学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基幹科目	2	生命システム工学特論	
		発展科目	2	細胞操作工学特論	
		研究実践科目	2	生命機能学演習2	
M2	春学期	—	2	生命機能学特別研究1B	1年次必修科目
		—	1	生命機能学特別実験1B	1年次必修科目
		—	2	細胞間コミュニケーション特論	
	秋学期	—	2	生体超分子構造学特論	
		—	1	生命機能学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1	生命機能学特別実験2A	2年次必修科目
修得単位数	小計		10	20	
	合計		30		

身につく
能力

• 階層縦断的なアプローチにより、多数遺伝子や多数蛋白質が共存する複合系の生命現象をも理解できる能力

想定される
進路先

• 化学・食品・製薬などのメーカーや国公立研究所の生命システム機能分野の研究員・技術員

生命機能学専攻(生命機能学領域) 修士課程 履修モデル⑤

養成
人材像

• 理科教員、科学ジャーナリスト

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	ゲノム科学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	蛋白質科学特論	
		基幹科目		2	細胞生物学特論	
		基幹科目		2	生命システム科学特論	
		研究実践科目	1		生命機能学特別研究1A	
		研究実践科目	1		生命機能学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	ゲノム工学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	蛋白質工学特論	
		基幹科目		2	細胞工学特論	
		基幹科目		2	生命システム工学特論	
		—	2		生命機能学特別研究1B	
		—	1		生命機能学特別実験1B	
M2	春学期	発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	2年次必修科目 2年次必修科目
		研究実践科目		2	生命機能学演習1	
		—	1		生命機能学特別研究2A	
		—	1		生命機能学特別実験2A	
	秋学期	—	2		生命機能学特別研究2B	2年次必修科目 2年次必修科目
		—	1		生命機能学特別実験2B	
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

• 理科教員に必要な生物に関する分野全般の能力

想定される
進路先

• 理科教員、科学ジャーナリスト

生命機能学専攻(生命機能学領域) 博士後期課程 履修モデル

養成
人材像

• 生命機能全分野の高度研究者

年次	科目区分	単位数		授業科目	備考
		必修	選択		
D1	春学期	—	1	生命機能学発展特別研究1A	必修
		—	1	生命機能学発展特別実験1A	
	秋学期	—	2	生命機能学発展特別研究1B	
		—	1	生命機能学発展特別実験1B	
D2	春学期	—	2	生命機能学発展ゼミナール	
		—	1	生命機能学発展特別研究2A	
	秋学期	—	1	生命機能学発展特別実験2A	
		—	2	生命機能学発展特別研究2B	
D3	春学期	—	1	生命機能学発展特別実験2B	
		—	1	生命機能学発展特別研究3A	
	秋学期	—	1	生命機能学発展特別実験3A	
		—	2	生命機能学発展特別研究3B	
修得単位数	小計	2	15		
		合計	17		

身につく
能力

• ゲノム機能、蛋白質機能、細胞機能、生命システム機能それぞれの分野に関する高度な能力
 • 生命科学に積極的に貢献できる能力
 • さまざまな分野の研究者と対等に議論が出来る能力

想定される
進路先

• 博士研究員(ポストドクトラルフェロー)・教員・研究員

生命機能学専攻(植物医科学領域) 修士課程 履修モデル①

養成
人材像

- 植物病の診断と防除を生産現場で行う人材。

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	応用植物医科学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	植物病先端研究特論	
		基幹科目		2	植物免疫分子システム学特論	
		基幹科目		2	植物薬学総合特論	
		研究実践科目		2	有用植物開発学特論	
		研究実践科目	1		植物医科学特別研究1A	
		研究実践科目	1		植物医科学特別実験1A	
	秋学期	基幹科目		2	基礎植物医科学特論	1年次必修科目 1年次必修科目
		基幹科目		2	植物総合診療科学特論	
		発展科目		2	応用生物生態学特論	
		研究実践科目		2	植物医科学演習1	
		—	2		植物医科学特別研究1B	
		—	1		植物医科学特別実験1B	
	春学期	—	1		植物医科学特別研究2A	2年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験2A	2年次必修科目
	秋学期	研究実践科目		2	植物医科学演習2	2年次必修科目 2年次必修科目
		—	2		植物医科学特別研究2B	
		—	1		植物医科学特別実験2B	
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- 植物病の正確な診断と、的確な予防と防除を行う能力。
- 植物病の診断、防除の新しい手法を開発する能力。

想定される
進路先

- 独立行政法人、都道府県の農業試験場や、農業会社等農業生産系企業。

生命機能学専攻(植物医科学領域) 修士課程 履修モデル②

養成
人材像

- 植物医科学を環境維持・保全等の分野に応用できる人材。

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
M1	春学期	基幹科目		2	応用植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物病先端研究特論	
		発展科目		2	土壤環境ゲノム科学特論	
		発展科目		2	有用植物開発学特論	
		研究実践科目	1		植物医科学特別研究1A	1年次必修科目
		研究実践科目	1		植物医科学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	基礎植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物総合診療科学特論	
		発展科目		2	生物アシミレーション科学特論	
		発展科目		2	応用生物生態学特論	
		研究実践科目		2	植物医科学演習1	
		—	2		植物医科学特別研究1B	1年次必修科目
	春学期	—	1		植物医科学特別実験1B	1年次必修科目
		—	1		植物医科学特別研究2A	2年次必修科目
	秋学期	—	1		植物医科学特別実験2A	2年次必修科目
		研究実践科目		2	植物医科学演習2	
		—	2		植物医科学特別研究2B	2年次必修科目
		—	1		植物医科学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- 植物病の診断、防除、予防の知識と、それを環境保全に応用する能力。
- 行政制度にも通曉し、行政的視点と自然科学の視点をバランスをもって見ることができる能力。

想定される
進路先

- 国や都道府県の自然管理・公園管理事業や、民間の緑化、造園系企業。

生命機能学専攻(植物医科学領域) 修士課程 履修モデル③

養成
人材像

- 食品系企業等で、食の安全・安心に積極的に貢献する人材。

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
1	春学期	基幹科目		2	応用植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物病先端研究特論	
		発展科目		2	細胞間コミュニケーション特論	
		発展科目		2	植物免疫分子システム学特論	
		研究実践科目	1		植物医科学特別研究1A	1年次必修科目
		研究実践科目	1		植物医科学特別実験1A	1年次必修科目
	秋学期	基幹科目		2	基礎植物医科学特論	
		基幹科目		2	植物総合診療科学特論	
		発展科目		2	生物アシミレーション科学特論	
		発展科目		2	植物病原学特論	
		研究実践科目		2	植物医科学演習1	
		—	2		植物医科学特別研究1B	1年次必修科目
	春学期	—	1		植物医科学特別実験1B	1年次必修科目
		—	1		植物医科学特別研究2A	2年次必修科目
	秋学期	—	1		植物医科学特別実験2A	2年次必修科目
		研究実践科目		2	植物医科学演習2	
		—	2		植物医科学特別研究2B	2年次必修科目
	秋学期	—	1		植物医科学特別実験2B	2年次必修科目
修得単位数		小計	10	20		
		合計	30			

身につく
能力

- 植物病原が生産する毒素や、残留農薬等に関する知識と、実際の化合物を分析する能力。
- IPM等の総合的防除手法を生産現場に適用する能力。
- 農産物・食品等の成分分析能力と、新しい手法を開発する能力。

想定される
進路先

- 食品系企業

生命機能学専攻(植物医科学領域) 博士後期課程 履修モデル

養成
人材像

- 植物病の診断、防除、予防の基盤を築く人材

年次		科目区分	単位数		授業科目	備考
			必修	選択		
D1	春学期	—		1	植物医科学発展特別研究1A	必修
		—		1	植物医科学発展特別実験1A	
	—	—	2	植物医科学発展特別研究1B		
		—	1	植物医科学発展特別実験1B		
		2	植物医科学発展ゼミナール			
D2	—	—	1	植物医科学発展特別研究2A		
		—	1	植物医科学発展特別実験2A		
	秋学期	—	2	植物医科学発展特別研究2B		
		—	1	植物医科学発展特別実験2B		
D3	春学期	—	—	1	植物医科学発展特別研究3A	
		—	—	1	植物医科学発展特別実験3A	
	秋学期	—	—	2	植物医科学発展特別研究3B	
		—	—	1	植物医科学発展特別実験3B	
修得単位数		小計	2	15		
		合計	17			

身につく
能力

- 植物病の正確な診断と、的確な予防と防除に関する高度な能力。
- 植物病の診断、防除の新しい手法の基盤を研究・開発する能力。

想定される
進路先

- 大学等の博士研究員、教員。独法、都道府県の農業試験場の研究員。